



日本鉄道保存協会 2022

2022（令和4）年9月16日（金）～17日（土）
神奈川県横浜市



横浜市認定歴史的建造物 汽車道

ごあいさつ

コロナの感染拡大がおさまらない中、横浜にお越しくださり、ありがとうございます。すでにご高承のとおり、明治 5 年（1872）、我が国初の鉄道が新橋—横浜間に開業して今年で 150 周年を迎えます。合わせて、日本鉄道保存協が平成 3 年（1991）に発足して、年度総会等を開催してから今年で 30 年を迎えます。この記念すべき時に鉄道発祥の地、横浜で日本鉄道保存協会の総会、講演会、シンポジウム、見学会を開催できますことは、誠に喜ばしく存じます。

これを記念して公益社団法人横浜歴史資産調査会（代表幹事団体）では、日本鉄道保全協会と力を合わせて鉄道開業 150 周年記念事業委員会（委員長古賀学・公益社団理事、松陰大学教授）を発足しました。委員会では、ロゴマークの製作、「私たちのまちの鉄道遺産」神奈川・横浜を中心とした写真展示会、「鉄道の記憶」冊子の発行、さらに全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会と連携した鉄道遺産フォーラムを計画、実施いたしました。

このように 150 周年を機に鉄道遺産を取り巻く社会環境は、お陰様で上向きにあります。文化庁が近代化遺産として歴史的車両、施設、構造物を国指定文化財や登録有形文化財とする一方、鉄道遺産が文化観光資源として地域活性化に寄与する時代になったのです。会員の皆さまに置かれましても鉄道遺産の保存・活用にますますご尽力されることをご期待いたしております。まさに鉄道遺産はふるさとの宝物なのです。

鉄道発祥の地、横浜開催での成果が将来に亘る鉄道遺産の保存、活用に少しでもお役に立てればこの上ない幸せに存じます。

引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2022 年（令和 4）9 月吉日
日本鉄道保存協会 代表幹事団体
公益社団法人横浜歴史資産調査会

会 長 宮村 忠

日本鉄道保存協会
2022年度総会・見学会プログラム

日 時 2022年(令和4年) 9月16日(金)～17日(土)

開催地 神奈川県横浜市

○見学会 : 横浜市内 (9月16日)

○総 会

○講演会・シンポジウム(9月17日)

日本丸メモリアルパーク 横浜みなと博物館会議室

○交流会 菜香新館(横浜中華街)(9月16日)

9月16日(金)

集合12:50 京浜東北・根岸線桜木町駅貸切バス乗降場(受付12:30～)

出発13:00 桜木町駅出発(バス移動)

横浜みなと博物館特別展示室見学「私たちのまちの鉄道遺産」展

横浜市電保存館見学

本牧公園見学(D51と高島機関区転車台)

神奈川臨海鉄道横浜本牧駅とC56139号

瑞穂橋梁見学

京急ミュージアム見学

京急ミュージアム出発

※京急ミュージアムより中華街へ

交流会

18:30開会

9月17日(土)

10:30 総会・シンポジウム受付開始

11:00 総会開会

主催者挨拶 交通協力会顧問・日本鉄道保存会顧問 菅 建彦

(12:00～13:30 昼食 自由行動)

14:00 シンポジウム開会

開催地報告 「ヨコハマヘリテイジの仕事」

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事・日本鉄道保存協会事務局長 米山淳一

記念講演「鉄道遺産をまちづくりに生かすー汽車道の魅力」

公益社団法人横浜歴史資産調査会社員・ものづくり大学名誉教授 増淵文男

15:00 活動報告・シンポジウム

遠軽町(丸瀬布森林鉄道)

丸瀬布総合支所 倉内健一

東武鉄道博物館

東武博物館名誉館長・日本鉄道保存協会顧問 花上嘉成

NPO法人愛岐トンネル群保存再生委員会

理事長 村上真善

北九州線車輛保存会

代表 手嶋康人

※コーディネーター 日本鉄道保存協会顧問・高崎経済大学名誉教授 大島登志彦

16:30 終了・解散

以上

日本鉄道保存協会 会員名簿

2022.9.5.現在

<凡 例>

番 号 団 体 名 (施設名)
〒 団体所在地 / 連絡先住所
 電話番号 / Fax 番号

団体代表者名
RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

01 遠軽町 (旧丸瀬布町)

〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長 佐々木修一
係 長 上戸 智仁 (☆)

02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)

〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長 石橋 強
事務局長 杉本 武勝 (☆)

03 三笠市 (三笠鉄道村)

〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880

市 長 西城 賢策
主 事 中山 凌 (☆)

04 三菱大夕張鉄道保存会

〒069-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel 011-387-4783

事務局長 今井 一郎 (☆)

05 NPO 法人オホーツク鉄道歴史保存会

〒090-0817 北見市常盤町 2-4-53
Tel 090-9524-9315

理事長 長南 進一 (☆)

- 06 北海道旅客鉄道株式会社
〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786
- 代表取締役社長 綿貫 泰之
運輸部運用課 松田 道規 (☆)
- 07 えべつ 1 / 1 会
〒067-0012 北海道江別市 2 条 2 丁目 6
北陸銀行内
Tel : 090-9967-1971 Fax : なし
- 会長 石田武史 (☆)
- 08 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会
〒133-0051 江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel 03-3672-7709
- 代表理事 星野 正博 (☆)
- 09 七百レールファンクラブ (七百鉄道記念館)
〒336-0926 さいたま市緑区東浦和 4-23-4-101
Tel 070-6528-2629
- 会 長 斎藤 正
副会長 野田 悟 (☆)
- 10 小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)
〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002
- 代 表 千葉 裕之
総務企画局長 亀沢 修 (☆)
- 11 栗原市 (くりはら田園鉄道公園)
〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel 0228-22-1125 Fax 0228-22-0313
- 市 長 佐藤 智
企画部企画課 佐藤 喬 (☆)
- 12 東北鉄道資料保存協議会 (みちのく鉄道応援団)
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4-10-3
JR 東日本東北総合サービス (株) 仙台支店内企画室 (事務局)
Tel 090-6854-9258 Fax 022-248-9258
- 代表幹事 佐藤 茂 (☆)

- 13 真岡線 SL 運行協議会
〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152
会 長（真岡市長） 石坂 真一
事務局長 菊地 高樹
担 当 間宵 嘉明（☆）
- 14 一般社団法人 あしおトロッコ館
〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-25-5810
総務担当 岡本 憲之（☆）
- 15 鹿島鉄道保存会（鹿島鉄道記念館）
〒113-0033 文京区本郷 2-40-14 山崎ビル 3 階
株式会社バレア内
Tel 03-5802-2755 Fax 03-3818-2700
代 表 加藤三千尋（☆）
- 16 鉾田駅保存会
〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 090-4387-8455
理 事 川津 重夫（☆）
- 17 ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）
〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社広沢商事 観光部 内
Tel 0296-45-5601 Fax 0296-45-5602
代 表 廣澤 清
担 当 野口 稔夫（☆）
- 18 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団（碓氷峠鉄道文化むら）
〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111
代表理事 中島 吉久
館 長 飯沼 勲
事務局長 小崎 正人（☆）
- 19 一般社団法人電鉄文化保存会
〒331-0802 目黒区八雲 3-4-9
代 表 日暮 成一
担 当 岩崎 直彦（☆）

- 20 日本工業大学（工業技術博物館）
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570
- 学 長 成田 健一
館 長 清水 伸二
講 師 五月女浩樹（☆）
- 21 秩父鉄道株式会社
〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551
- 代表取締役社長 牧野 英伸
技術部車両課 木村 壮史（☆）
- 22 東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352
- 代表取締役社長 深澤 祐二
総務・法務戦略部 安藤 文人（☆）
- 23 公益財団法人 東日本鉄道文化財団
〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570
- 会長 富田 哲郎
学芸部 五十嵐健一（☆）
- 24 一般財団法人 東武博物館
〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814
- 理事長 三輪 裕章
専務理事・館長 山田 智則
運営理事・管理担当課長 伊藤美千夫（☆）
- 25 公益財団法人 日本ナショナルトラスト
〒102-0083 千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190
- 会 長 梅崎 壽
事業課 出口美智子（☆）
- 26 公益財団法人 交通協力会
〒100-0005 千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809
- 顧 問 菅 建彦（☆）

- 27 横浜市電 1156 号保存会
〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707
- 代 表 齊藤 大起 (☆)
- 28 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ)
〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405
Tel 045-651-1730
- 会 長 宮村 忠
常務理事 米山 淳一 (☆)
- 29 新潟市新津鉄道資料館
〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808
- 館 長 高山 栄一
副館長 加藤 裕之 (☆)
- 30 上松町 (赤沢森林鉄道)
〒399-5603 長野県木曾郡上松町上松 159-4
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038
- 町 長 大屋 誠
商工観光係 見浦 崇 (☆)
- 31 信濃追分駅舎・可惜 (あたらしい) 会
長野県軽井沢町追分
Tel 090-7704-1918 (河合☆)
- 代 表 那須 由莉
担 当 河合 桃子 (☆)
- 32 足久保鐵道株式会社
〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444
- 代表取締役 玉井 宏政 (☆)
- 33 大井川鐵道株式会社
〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4113 Fax 0547-45-4115
- 代表取締役社長 鈴木 肇
鐵道部長 坂本 光司 (☆)

- 34 東海旅客鉄道株式会社（リニア・鉄道館）
〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2 リニア・鉄道館
Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101
代表取締役社長 金子 慎
館 長 天野 満宏（☆）
- 35 公益財団法人 博物館 明治村
〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358
館 長 中川 武
主 任 近藤 雅隆（☆）
- 36 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会
〒487-0004 愛知県春日井市玉野町 1660
Tel 090-4860-4664
理事長 村上 真善（☆）
- 37 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク
〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677
理事長 鈴木 進悟
レールマウンテン
バイク事務局 田口由加子（☆）
- 38 公益社団法人 長浜観光協会（長浜鉄道スクエア）
〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396
館 長 今井 克美
主 査 梅園いつ子（☆）
- 39 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会
〒526-8501 滋賀県長浜市八幡町 632
Tel 0749-65-6521 Fax 0749-64-0396
事務局（長浜市） 川瀬 雄太（☆）
- 40 NPO 法人 貨物鉄道博物館
〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142
館 長 伊藤 則人
常務理事 南野 哲志（☆）

- 41 西日本旅客鉄道株式会社
〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24
Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053
代表取締役社長 長谷川一明
鉄道文化推進室 多田 祐貴 (☆)
- 42 公益財団法人 交通文化振興財団
〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114
理事長 長谷川一明
専務理事 前田 昌裕
交通調査センター長 川端 英登 (☆)
- 43 宮津海陸運輸株式会社 (加悦 SL 広場)
〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel 0772-42-3186 Fax 0772-42-5300
代表取締役 野田 真人
管理課長 柴田万喜也 (☆)
- 44 NPO 法人 加悦鐵道保存会
〒612-8485 京都市伏見区久我森の宮町 4-144
Tel 090-3829-4000
理事長 吉田 博一
副理事長 上野山博己 (☆)
- 45 片上鐵道保存会
〒708-0001 岡山県津山市小原 149-5
Tel 090-7896-4858
代表幹事 甲本 康則 (☆)
- 46 若桜駅を元気にする会
〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場ふるさと創生課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134
会 長 丹松 正信
事務局 谷本 剛
事務局 北内 泰久 (☆)
- 47 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取
〒681-0011 鳥取市東町 1-201
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103
理事長 渡辺 一正
事務局長 太田 縁 (☆)

- 48 山口線 SL 運行対策協議会
〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロモーション推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179
- 会 長 田上 敦則
観光プロモーション
推進室 中上 秀太 (☆)
- 49 西条市 (鉄道歴史パーク in SAIJO)
〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164
Tel 0897-56-5151 Fax 0897-52-1200
- 市 長 玉井 敏久
観光振興課副課長 伊藤 彰浩 (☆)
- 50 馬路村 (魚梁瀬森林鉄道)
〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11
馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鉄道運営委員会
Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208
- 村 長 山崎 出
魚梁瀬支所 山内 忍 (☆)
- 51 宇高連絡船愛好會
〒706-0011 岡山県玉野市宇野 5-21-13
Tel 090-1337-7660
- 代 表 三村 卓也 (☆)
- 52 九州旅客鉄道株式会社
〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21
Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898
- 代表取締役社長 古宮 洋二
広報部 中村 智和 (☆)
- 53 北九州線車輛保存会
〒818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1
Tel 080-6412-1666
- 代 表 手嶋 康人 (☆)

賛助会員

- 01 株式会社鉄道ジャーナル社
〒102-0072 千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F
Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597
- 編集長 宮原 正和
編集部 伊藤 丈志 (☆)
- 02 日本鉄道写真作家協会
〒188-0011 西東京市田無町 2-17-8-304
有限会社マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内
- 会 長 猪井 貴志
事務局・副会長 長根 広和 (☆)
- 03 有限会社 レイルマンフォトオフィス
〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046
- 会 長 山崎 友也 (☆)
- 04 有限会社鉄道フォーラム
〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57
Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310
- 代表取締役 伊藤 博康 (☆)
- 05 株式会社日本旅行
〒105-8606 東京都中央区日本橋 1-19-1 日本橋ダイヤビルディング 12 階
Tel 03-6895-7865
- 代表取締役社長 堀坂 明弘
情報システム部 瀬端 浩之 (☆)
- 06 株式会社井門コーポレーション
〒140-0011 東京都品川区東大井 5-15-3
Tel 03-3450-1111 Fax 03-3450-2516
- 代表取締役社長 井門 義博 (☆)
- 07 株式会社東海汽缶
〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎 970
Tel 054-346-6688 Fax 054-346-6430
- 取締役業務統括部長 石川 寛之 (☆)

08 株式会社ヤマネ

〒561-0831 大阪府豊中市庄内西町 5-1-76

Tel 06-6332-0157 Fax 06-6332-7086

代表取締役社長
技術部課長

林 圭祐
高見 浩 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

赤羽 誠	阿部 豊	岩野 弘一	加藤 圭哉	河合 桃子
佐藤 卓司	倉繁 聡	柴山 純一	白川 淳	須藤 哲也
関田 克孝	関本 康人	橘 秀幸	田中 光一	田中 浩史
長野 光芳	名取 紀之	西尾 恵介	野田 知毅	水野 彌彦
杉崎 行恭	神崎 史恵	安倍 敏陽		

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名



遠 軽 町



〒 099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布上武利
Tel : 0158-47-2213 Fax : 0158-47-2128
URL : <https://engaru.jp/>
Email : m-sangyou@engaru.jp
担当者：丸瀬布総合支所 係長 上戸 智仁



H26.9.23 撮影 雨宮 21 号・DL 機関車併走同時運行

雨宮 21 号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和 3 年から約 30 年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輛の 1 台です。

用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和 54 年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

SL キャラクター
「あめまるくん」

【施設概要】

平成 16 年度 北海道遺産に選定(NPO 法人北海道遺産協議会)
平成 20 年度 近代化産業遺産に認定(経済産業省)
平成 24 年度 準鉄道記念物に認定(JR北海道)
平成 29 年度 林業遺産に認定(一般社団法人 日本森林学会)

1. 運 行 日 令和4年4月29日から10月16日までのGW・夏休み・土・日・祝日
2. 運行時間 10時から16時30分(30分おき)
3. 運行区間 森林公園いこいの森園内 2km
4. 乗車料金 大人800円(高校生以上) 小人400円(4才以上)
※令和4年度より料金改正。大人 500 円→800 円 小人 250 円→400 円

【近況報告】

◆夜桜撮影会・まるせつ観光まつり・お月見列車運行(撮影会含む) 開催予定
※ 観光まつりはイベント規模縮小のため、ミッドナイトランは中止。

◆機関士見習い奮闘中

遠軽町では、令和3年度に「雨宮21号」の機関士を募集し、機関士候補2名を会計年度任用職員として採用。

任用期間を2年とし、適性を判断の上、町の正職員として採否決定することとしています。

機関士候補のうち1名は狭軌鉄道の大ファン(20歳)、もう1名は地元のために働きたいと応募(40歳)。

現在、2年目を迎え、慣れない作業が続く中で機関士を目指し、日々修行中。

◆地方創生応援税制

(企業版ふるさと納税) 継続中

遠軽町では、現在、「ロマンあふれる「森林鉄道の聖地」10tディーゼル機関車動態復元プロジェクト」への支援を募集しています。

昭和31年に製造された10tディーゼル機関車が、丸瀬布森林公園いこいの森で、再び汽笛を上げるロマンあふれるプロジェクトにご協力をお願いします。

最終目標 6000 万円!



団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email r_rail@rikubetsu.ltd

☆ 気動車運転体験が出来る観光鉄道 ☆

【営業期間】(令和4年度)

4月23日(土)～10月31日(月)

【気動車運転体験】

CR70・75型車両を運転士の指導を受けながら運転していただくコースです。

全て2ヶ月前からインターネット又は電話にて予約を開始(Sコースは空きがあれば運転可能)

(Sコース) 15分程度の運転体験

料 金：2,000円

対 象 者：小学校以上

(Lコース) 80分程度で講習・出区点検・ポイント切替・運転体験等

料 金：20,000円

対 象 者：18歳以上

(銀河コース) 80分程度で構外運転1.6km

料 金：30,000円

対 象 者：18歳以上

条 件：Lコースの体験者

(新銀河コース) 80分程度で構外運転2.8km

料 金：35,000円

条 件：銀河コースの体験者

(分線コース) 80分程度で構外運転2.8km

料 金：60,000円

条 件：新銀河コースの体験者

(銀河コースパックセット)

Lコース、銀河コース、新銀河コース、分線コース
を2日以上連続でご利用される方には、町内無料宿
泊券(2食付)がつきます。(なか日のみ)

<令和4年度事業経過>

2008年4月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は、今年開業15年目を迎え4月23日から運行を開始しております。2010年に「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別町で開催され、2012年より1.6km構外へ延伸した運転体験「銀河コース」を開設、翌年にはトロッコ周回路1周400mを設置、同年9月にりくべつ鉄道メーテル号を「銀河鉄道999」の原作者「松本零士氏」が運転する特別運行と陸別町銀河の森天文台とのコラボイベントを開催しました。2020年からは、「新銀河コース」2.8kmを開設、翌年には陸別駅～分線駅までの1駅まるごとを運転体験出来る「分線コース」5.7kmを開設しました。

2022年からは分線駅に建設した車両庫からの出庫で、排雪モーターカーの運転操作体験を始めました。



<2022年ハイモ運転操作体験開始>



【気動車乗車体験】

CR75(銀河鉄道999列車)を使用して運行しております。

料金：(構内) 中学生以上300円、

小学生 200円

小学生未満無料

(構外) 中学生以上500円

小学生 300円

小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式トロッコで400mの周回コースを1周

料金：中学生以上300円・小学生200円

小学生未満無料

【ハイモ運転操作体験】

60分程度の排雪モーターカー運転操作体験

料 金：30,000円

<令和4年度イベントスケジュール>

※今年の特別運行は5.7km先の分線駅までの往復

4月23日(土) 令和4年度営業開始

5月 4日(水) ゴールデンウィーク構外特別運行

7月24日(日) 夏休み構外特別運行

8月13日(土) お盆休み構外特別運行

9月25日(日) 網走線開業記念構外特別運行

10月 9日(日) 鉄道開業150周年記念構外特別運行

10月31日(月) 令和4年度営業最終日

団体名	北海道三笠市	〒 068-2192 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/ Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp 担当者：主事 中山 凌
施設名	三笠鉄道村	〒 068-2145 Tel : 01267-3-1123 URL : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和62年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・SL部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車S-304号は、1939年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■SL運行（乗車1回300円）

運行日……4月16日から10月16日までの土・日・祝日
 ※7月下旬～8月中旬までの夏休み期間は、休館日を除き毎日運行
 土曜……12：00始発～16：00発最終
 日曜・祝日…10：00始発～16：00発最終
 ※30分毎の発車です。
 ただし、12：30発の便はありません。

■SL機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車S-304号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道450mを1往復。5分足らずのわずかな時間ですが、気分はSL機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も850人を超え、多くの方に楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■展示車両（三笠鉄道村幌内ゾーン）

動態展示・・・S-304（C形タンク機）、コトラ149456、コトラ153095
 機関庫内展示・・・C122（国鉄C12形機関車）、59609（国鉄9600形機関車）、ED76505、DD13353
 屋外展示・・・DD51610、オハフ33451、スハフ4412、スユニ50505、キハ2252、キハ2723、キロ26104、キハ5616、DD1517、DD141、チキ6147、ソ81、スエ3041、スエ321、DD1615、キ274、キ756、セキ6657、トラ72568、ワム66172、DE101702、排雪モーターカー510、ロータリー排雪車DL7L、坑外用8t電気機関車2両
 食堂車・・・スハフ4520、キシ8031、オハフ46504

■イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。
 イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぼっぽレンジャー」が登場します。
 今年は新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、イベントを従来どおり開催。
 客車ではなく、運行しているSLの運転席で「SL汽笛ならし体験」を行っているほか、「ビンゴ大会」や「どん菓子」実演など、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。
 また、今年で幌内鉄道の全線開通から140周年となるため、記念行事としてパネル展や「さらば栄光の幌内線」上映会等を実施し、来場者には限定記念缶バッジの配布を行いました。

■教育旅行の受け入れ

毎年、三笠ジオパークの活動と連動し、教育旅行の受け入れを行っており、日本の近代化や北海道開拓を支え、幌内炭鉱から採掘された石炭を本州へ輸送するため、北海道で最初に敷設された幌内鉄道の歴史を多くの学生の皆さんに学んでいただきました。
 受け入れ人数も着実に伸びてきており、更なる教育プログラムの推進に力を入れていきたいと考えております。

団 体 名	三菱大夕張鉄道保存会	(事務局) 068-0534 夕張市清水沢宮前町 39 宮コ-23 清水沢コミュニティーゲート内 担当：今井 携帯電話 090-2874-7000
三菱大夕張鉄道保存会について 昭和62(1987)年7月、三菱石炭鉱業鉄道(三菱石炭鉱業株式会社南大夕張鉱業所鉄道課)として三菱鉱業大夕張鉄道時代から夕張市大夕張鹿島、南部またその沿線の炭鉱から産出された石炭や林材、また住民の足となっていた鉄道が炭鉱会社の合理化で廃線となり南大夕張駅跡地に遺されたラッセル車、客車、セキ車などは一時期個人に譲渡され、ライダーハウスなどに活用されていたが、個人が高齢のために車両を夕張市に再譲渡。 しかしながら譲渡された車両群はほぼ手付かずのまま放置。荒れ果てた状態になるのには時間はかからなかった。さらには平成11(1999)年の春に屋根上積雪のため客車1両が倒壊の危機となり、夕張市南部地区の地元有志、元住民、元鉄道職員、鉄道ファンが集結。シューパロ塾を結成。町おこしのための学習団体としながらも南大夕張駅跡地の車両群の補修を始め、車両を修復保存するための専門団体を派生させたのが三菱大夕張鉄道保存会です。 以来、所有者の夕張市と協議しながら車両の修復・保存活動とともに夕張の鉄道や炭鉱の歴史を研鑽、広報する活動を主軸としている団体ですが、相談を受けることに依り創会以来蓄積した修復技術を他の鉄道車両保存団体に提供することも行っています。		
令和3年度～4年度上期の活動について 令和3年度については新型コロナ感染拡大に依り活動も夏季間の定例補修作業にとどまり、他団体との共同活動も夕張市の施設、SL館の雪おろしのみとなりました。 令和4年度上期については、5月の総会を皮切りに夏季間の定例補修作業、懸案の旧南大夕張駅ホーム崩壊補修に関わる協議を夕張市と進め、7月に工事が完了しました。 また、傷みが激しい客車スハニ5、オハ1の屋根に関して大規模補修を行う段取りをつけ、8月現在、業者と打合せ中です。 特記すべきは、新型コロナ禍にて3年間開催を見送った地域イベント「汽車フェスタ」を、縮小しつつも8月下旬に開催いたします。 炭鉱があった頃にはたくさんのイベントがあった街に、今では当保存会が主催するイベントしか残らなくなっていました。 今年度も新型コロナ蔓延拡大で催行の決断をぎりぎりまで迫られましたが、「汽車フェスタ2022・ミニ」と名付け、継続を旨とし催行することと致しました。 夕張市南部の南大夕張駅跡地の保存車両の冬囲いは11月上旬の予定で、それまでは一般公開しています。		

団体名	特定非営利活動法人 オホーツク鉄道歴史保存会	〒090-0817 Tel : 090-9524-9315 Fax : 0157-31-0370 URL : https://www.orhps.org/ Email : info@orhps.org 担当者：理事長 長南 進一
-----	----------------------------------	--

私たちは「オホーツク鉄道歴史記念館」開設をめざしています。

私たちの地元北見市には二つの記念館があります。一つはキリスト教の宣教師として社会や文化の近代化に腐心したピアソン夫妻の業績を伝える「ピアソン記念館」（北海道遺産）。もう一つは生産量世界一を誇り、地域の経済に隆盛をもたらしたハッカ蒸留所跡の「ハッカ記念館」（近代化産業遺産）です。いずれもオホーツクの近代化の歴史を今に伝えるものです。これに対して「オホーツク鉄道歴史記念館」は鉄道を動かし、森林を伐採し、鉱山を掘り進んだ人々の労働のスペクタクルとこれらの人々に関わる悲喜交々のドラマを伝えます。

かつてオホーツクには鐵道院網走線の開通にはじまる国鉄各線、7つの森林鉄道、鉱山軌道や植民軌道等25の鉄軌道がかけめぐりました。鉄道や軌道は文字通りオホーツクの開拓と近代化の牽引車として、産業を興し、町を作り、人々の日々の生活に深く関わりました。私たちは北見市に3つ目の記念館がつくることで、オホーツク近代化の真の姿を生々しく甦らせようと考えています。



昭和23年の北見機関区



温根湯森林鉄道



常呂鉄山軌道

しかし、記念館の開設には、多くの資金と時間が必要です。それまでの間、私たちは歴史的鉄道車両の内部を使い博物館や資料の展示を行います。今年はそのファーストステップとして、



最も劣化の激しいスユ15、ヨ、ワフの修復を行います。その資金を募るために、クラウドファンディングを実施中です。

<https://readyfor.jp/projects/orhps1> からご支援ください。

9月30日まで、目標額は200万円です。



8月13日、歴史的車両スユ15の車内を博物館・資料の展示場として利用する初めての取組みを実施しました。クラウドファンディングの成立後に車両の整備と展示施設の整備をし、網走線開業時のレール（官営八幡、英 Bolckow&Voughan）の展示、オホーツク鉄道の歩み、オホーツク鉄道遺構一覧などの常設展示、森林鉄道、鉱山軌道などの企画展示を開始いたします。

団体名	北海道旅客鉄道株式会社	〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15 丁目 1-1 Tel : 011-700-5785 Fax : 011-700-5786 URL : https://www.jrhokkaido.co.jp/ Email : matuda-m@jrhokkaido.co.jp 担当者：運輸部運用課企画G 松田 道規
-----	-------------	--

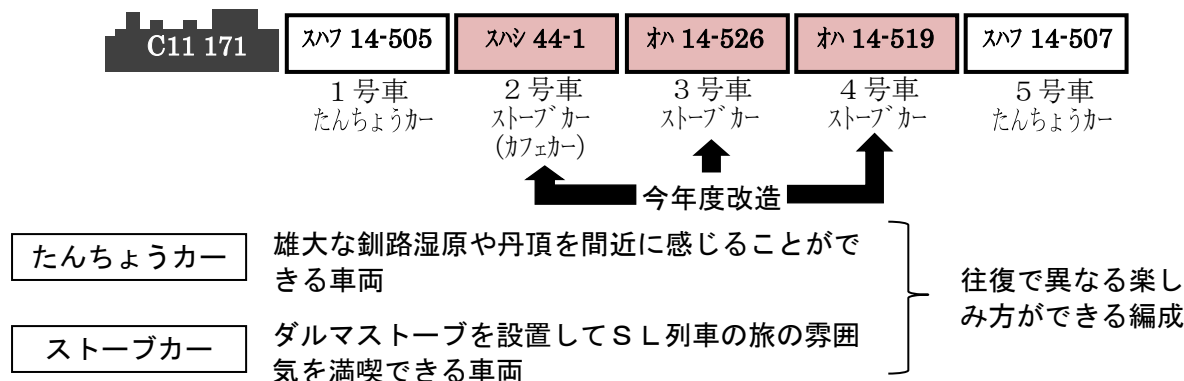
「SL冬の湿原号」SL客車（ストーブカー）リニューアルの実施

「SL冬の湿原号」は、道東観光の冬の風物詩として 20 年以上釧網線で運行しており、地域の皆様からご支援いただいております。当社としても道内唯一のSL観光列車を守り、より魅力を楽しんでいただくため、昨年度の「たんちょうカー」に引き続き、今年度は「ストーブカー」のリニューアルを実施します。

●実施内容

○SLが持つ「ノスタルジー」や「レトロ」感をベースに、内装には丹頂やエゾシカのシルエットをあしらうなど、北海道ならではのSLの旅を楽しんでいただける工夫をしています。

(リニューアル後)



○2022 年度は、「ストーブカー」のリニューアルなどを実施します

- ・ノスタルジーを感じるとこ懐かしい室内にリニューアルします。
- ・内装の変更を実施します。(腰掛生地、壁面、カーテン、テーブル等のリフレッシュ)
- ・2号車(カフェカー)については、現状のイメージを踏襲しつつ、内装のリフレッシュを実施します。



ストーブカー2号車
(カフェカー) 客室イメージ



ストーブカー3, 4号車
客室イメージ

○お客様の利便性向上を図ります

- ・トイレの洋式化(1, 3, 5号車)を行います。
- ・大型荷物置場の設置(1, 3, 5号車)を行います。

○新型コロナウイルス感染症対策としてテーブルへのパーティション設置などを引き続き実施します。

詳しくは、当社 HP (<https://www.jrhokkaido.co.jp/>) もご覧ください。

団体名	えべつ1／1会 	〒067-0012 北海道江別市2条2丁目6 旧北陸銀行内 Tel：090-9967-1971 Fax：なし URL：準備中 Email：準備中 担当者：会長 石田武史
-----	--	--

えべつ1／1会は、市内の鉄道ファンを中心に結成され、江別の鉄道に関わる様々な活動に幅広く取り組みながら、地域の活性化に貢献することを目的とした団体です。江別の鉄道文化や歴史などを継承・保存していく市民の機運を高めるための活動を続け、蒸気機関車や鉄道の復元・運行をめざしています。

■えべてつ

鉄道模型走行会、鉄道写真展示、江別の鉄道や街の歴史についての展示・解説などを行っています。会場は地元のお寺のご協力を得て実施。地元産の小麦を使用したスイーツなどの販売も行いました。



■えきてら

市内に最初に開設された江別駅が開駅140年を迎えます、市民や大学生、子供たちと一緒に、駅前を明るくしてイベントなどを通じて、賑わいを取り戻す活動を続けています。



■そのほか

鉄道と地元の特産物をつなぐことで、地元の活性化も目指しています。



団体名	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会	〒 039-2512 青森県上北郡七戸町笹田 5 4-2 Tel : 080-3201-4158 Fax : URL : http://www.ogaemon.com Email : 担当者：星野
-----	------------------------	---

平成 9 年運転休止、平成 14 年に廃線となりました南部縦貫鉄道で使用されていた車輛の保存活動を行っています。

富士重工製のレールバスキハ 101・102 の 2 両とキハ 104 ディーゼルカー 1 両、機関車 3 両 (D451、DC251、DB11) を旧七戸駅構内で保存を行っています。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車できるイベントを開催し、秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップを行い撮影会を開催しております。

また地元自治体の七戸町と連携し七戸町の子ども向けイベントを開催し、かつてこの地に南部縦貫鉄道が走っていた事を伝えるイベントを開催しています

2022 年度の活動ですが、新型コロナウイルスの影響により、レールバスの体験乗車イベントは取りやめ、車両の展示をするイベントにとどまり、活動を大幅に縮小しております。



団体名 七百レールファンクラブ

<https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815>

七百検修庫: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2

会長: 斎藤正

施設名 七百鉄道記念館

七百鉄道記念館 事務取扱方

住所: 〒336-0926

埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101

氏名: 野田 悟

連絡先: 090-6568-2629(開館時以外は通じません)

メール: shichihiyakurfc@yahoo.co.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足

平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入

平成27年5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施

(この間、年2回=春・秋のペースで一般公開を実施致しました)

令和元年10月20日 第十回 一般公開を実施

令和2年度～3年度は新型コロナウイルスの影響で一般公開は見送りとさせて頂きました。本年度は9月4日の十和田観光電鉄線開通100周年記念日に3年振りの一般公開を実施いたしました(原稿執筆段階では予定)。



9月4日の
一般公開
告知チラシ
〔予定稿〕



【保存車両】
ED402(左)
ED301(右)
ほか



本年、寄贈されました三沢駅
正面入口駅名看板

一般公開が見送りとなっていた2年の間にも、旧: 十和田観光電鉄三沢駅の正面入口駅名看板や駅舎内の木製ベンチの寄贈を受け、展示品の充実を図ることが出来ました。今後も十和田観光電鉄線に関する歴史資料の保存と継承に引き続き活動して参りたいと考えております。

※ 個人連絡先(野田)

自宅: 048-876-0102

自宅PC: IZD01662@nifty.com

個人携帯: 090-2520-2629

個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9

Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

さあ、肅々と新たな活動へ！！



小坂町かぶきん



▲見よ、DD130形機関車の勇姿を！

小坂鉄道保存会は結成10年目となりました。新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中で、細々とながら活動を続けているところです。そんな中、昨年12月には、延期となっていた国土交通省「手づくり郷土賞受賞記念発表会」が東京で開催され、思いがけず審査員特別賞をいただくことができました。思うように活動できない中、大きな自信となる出来事でした。

また、トミーテックの小坂鉄道DD130形ディーゼル機関車模型化（Nゲージ）にも協力することができました。今年7月にタンク貨車のセットとともに販売されましたので、保存協会会員の皆様の中でも購入された方が多いのではないのでしょうか。

しかし、実機のディーゼル機関車は、齢50を過ぎ、経年劣化による不具合が生じています。小坂鉄道レールパークでは復活に向けて整備を進めましたが、お客様に乘務いただくには無理があるとのことから、運転体験事業は当面休止となりました。加えて、保存会活動のメインである「ブルートレインあけぼの」での「魅せ鉄」によるおもてなしも、24系車両の不具合（漏水）により今年度の宿泊営業が中止となったため、出番なしという結果に。度重なる車両の不具合は、感染症拡大により長く留置されていたことから、発見が遅くなったことが一つの要因とも言えるでしょう。

小坂鉄道保存会は、新たな目標を見つけて、肅々と取り組む必要に迫られています。さあ、次なる10年へ向け、出発進行です。



▲「手づくり郷土賞受賞記念発表会」にて審査員特別賞を受賞。前列中央が誇らしげな表情の千葉会長！



▲令和4年6月、ほぼ修復が完成したワフ28001の前で

小坂・鉄道まつり2022 in小坂鉄道レールパーク
令和4年（2022）10月9日（日）・10日（月・祝）

くりはら田園鉄道公園概要・・・

2007 年 4 月 1 日に廃線となったくりはら田園鉄道。その資料や車庫、若柳駅・車両などを含む一体を保存・活用する施設として、栗原市営で 2017 年に開館いたしました。

当施設は資料館を含む静態保存車両・車庫の展示を行うミュージアムゾーン、若柳駅を拠点に片道 900m の保存線路を有し、乗車会や運転体験を行うアトラクションゾーン、動態保存車両が見える線路脇に作られた芝生広場の 3 拠点からなる複合施設となっております。

※2021 年から NPO 法人 Azuma-re が指定管理者として運営を行なっています。

（右写真：くりでんミュージアム空撮写真。写真左側線路が伸びている建物が、使用されていた車庫）



施設運営・活動報告

令和 4 年度も例年通り、ミュージアムイベントの開催および乗車会 / 運転体験開催を行なっております。中でも運転体験については、令和 3 年度から完全個別制 / 1 時間貸切運行に切り替えたことが好評となり、令和元年度実績比較で 3 倍の申込がありました（令和 2 年度は実施していない）

令和 4 年度は開催回数を昨年より倍、合計 48 枠（開催日数 12 日、1 日 4 枠）を用意。2022 年 8 月の時点で 9 割の申込が完了しており、ミュージアム運営の収入の要に成長しました。また令和 4 年度から、運転体験体験者に栗原電鉄ロゴの入った作業帽のレプリカを贈呈、好評を得ています。

コロナ禍ではありますが、行動制限も緩和され来場客は増加しています。感染対策をしながら今年度も運営いたします。

●主なイベント・乗車会実施報告

KD 乗車会＝令和 4 年 4 月～12 月まで毎月 1 回開催（6 月～11 月まではくりでん保存愛好会と共同主催）

レールバイク乗車会＝令和 4 年 4 月～10 月まで毎月 1 回程度開催（車両とのダブル乗車会含む）

4 月 17 日（日）くりでん桜まつり（商工会との連携企画として企画したがコロナのため単独開催）

5 月 4 日（水・祝）、5 日（木・祝）GW こどもまつり・・・乗車会＋ミュージアムイベント

7 月 23 日（土）、24 日（日）くりでん七夕祭り・・・地域の歴史と絡めた七夕飾りを展示した



▶栗原電鉄の作業帽のレプリカを作成。



▲ボンネットバスで桜並木を周遊する乗車会（桜まつり）日本昭和の車保存会が所有する栗鉄カラーボンネットバス。



▲イベントで 1 日駅長を募集し、体験いただいている。子供用の制服も制作した（110～150 サイズ）



▲4 月には現役時代に毎年依頼していた安全祈願のご祈禱を、廃線以来初めて行なった。OB も集まり、一年の無事を祈った。

保存・修繕活動

令和 3 年度 7 月から駅舎常駐スタッフとしてくりでん保存愛好会所属の運転士を採用したことをきっかけに、車両や線路のメンテナンス活動が活発になりました。令和 3 年度には約 50 件に及ぶ修繕が行われ、車両の状態は例年よりもいい状態と言えます。しかし、経年劣化は随所に現れているため、今後とも協力会社と連携して修繕を行います。また栗原市主導で、KD951、953 の塗装剥がれの塗り直しを目的とするクラウドファンディングを実施中です。受付期間は 9 月 30 日（金）までとなっておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

※令和 4 年 3 月 16 日に発生した福島県沖地震（最大震度 6 強）の影響で展示物の一部が倒れるなどの被害がありました。復旧しています。

※令和 4 年 7 月 16 日に発生した東北地方の大雨においても当館施設内の被害は確認されませんでした。



▲構内の枕木で特に損傷が激しかった車庫に向かう線路の枕木を 40 本交換した。交換は保存愛好会と駅舎スタッフで実施。



▲2022 年 7 月 28 日 運転シミュレーターで使用していた KD11 運転席上部にある発煙筒ハンドルをお客様が誤って作動・火災報知器が鳴る騒ぎがあった。来場者に怪我はなかったが、再発防止のため静態保存車両の発煙筒は外している。



▲経年劣化で塗装が剥がれてしまった動態保存車両の KD951、953。

動態保存車両 KD951、KD953 の塗装費用を集めるクラウドファンディングに挑戦中！（ふるさとチョイスにて実施）



団体名	みちのく鉄道応援団 (東北鉄道資料保存協議会)	〒 980-0021 Tel : 022-221-6067 Fax : 022-261-1795 URL : https://michinoku-railroad.cocolog-nifty.com/blog/ Email : t-kusaka@livet.jregroup.ne.jp 担当者 : JR 東日本東北総合サービス株式会社 仙台支店内 企画室 日下敏彦
-----	----------------------------	--

令和4年度活動報告

みちのく鉄道応援団
代表幹事佐藤 茂

昨年来この一年も3年前に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症の蔓延のため諸行事に強く制約を受けた一年間であった。本稿を記している令和4年8月も第七波が社会問題となっている。

幹事会は月一回の頻度で行っていたが、各回インターネットを用いて電子紙上開催とした。幹事会終了後恒例の鉄道談義も手控え、また当会の新年会も延期したままであるが、当会の会報である『みちのく』第9号を去る7月1日発行した。

総会も紙上開催としたことにより、会員同士の交流が乏しくなっていたが、新しい企画として『鉄道サロン』という気楽な御座敷茶話会を計画し第一回目を昨年12月に開催し好評を得た。但し、第二回は当初当年1月に予定していたがオミクロン株の影響で一旦中止とし、4月に開催した。仙台周辺の旧専用線の話で盛り上がった。

当会の重要事項の一つ、交流電化試験関連の諸資料の保存に就いては大問題が生じた。利府総合車両センターに保管されていた電気機関車に続き、利府町森郷児童遊園に保存されていたED91形11号も解体するとのことが昨年3月利府町より発表された。解体を止めるべく各方面に働き掛け、8月には当会主催の勉強会を開き、鉄道保存協会とも連携し、保存継続の努力を行ったが、当平成4年1月に解体された。そればかりか、当会の有力な協力先である東北福祉大学鉄道交流ステーションもその存続が危ぶまれている。コロナ禍で思わぬ事態が進行した。

他団体との関係では、筆頭に東北福祉大学の企画展や鉄道模型館展示への協力が有るが、当年も大学自体も入館に制約があり、休止状態。そればかりか模型館は都内の高校へ譲渡された。同ステーション存続の為に関係各位種々尽力中である。当会としては、昨年令和3年11月11日に千葉公慈学長に面談申し上げ鈴木会長と佐藤代表幹事とが同ステーションの存続を陳情している。

令和3年8月には全国組織である鉄道保存協会に加盟した。これは当会の顧問でもある米山淳一氏の紹介によるもの。他の団体と連携することにより、単独で実現し得ないことをやろうとの狙いもある。早速、同会報9月号に佐藤がED91の件を投稿し、11月には当県栗原で開かれた年次総会に出席した。前述の通りED91の保存継続に向け関係各位尽力した。

また、C601保存会は、同会の総会自体も当年も紙上開催となったが、掃除会は令和3年11月20日(土)に好天下で実施され、当会からも数名参加した。尚、週末毎の説明当番は、機関車運転室が密状態になり易いことから中止されている。尚、同会からは去る6月にC60保存会結成五周年記念誌が発行された。

そして、会員向けに令和2年7月から週一回鉄道関連動画の御紹介を続けている。現下、尚も旅行し難い状況なので、動画で訪問し併せて過去の記録性の高い動画を観ることで時間旅行も行うと言う企てである。概ね、地元、国内、世界と順に巡っている。既に約100本は行なった。メールアドレス登録済みで且つメール連絡を可とされている会員に向けて行っている。

コロナ禍の一方で思わぬ事態が進行し、対応に追われつつ、また活動に制約を受けつつも工夫を凝らして行えるものは行っている。遠からずこのコロナ禍も収まることであろうから、活動再開のための準備期間と捉えたい。当令和4年(2022年)は鉄道150周年であり、50年前の100周年の際には仙台駅を中心に大規模な行事が行われた。今回はどの様になるかは不明であるものの、関連の行事も想定される。会員御各位にあっては創意工夫を凝らし準備に怠らないことと期待したい。

(以上)

団体名	真岡線 S L 運行協議会	〒 321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412 番地 Tel : 0285-82-9151 Fax : 0285-82-9152 URL : https://www.moka-railway.co.jp/ Email : furusatoshinkou@hagakouiki.jp 担当者：間宵 嘉明
-----	---------------	---



▲ S L 乗車 1 0 0 万人達成記念式典の様子

「S L もおか」運行概要

- 【運 行 日】 毎週土曜日・日曜日（年末年始を除く）
- 【運行区間】 真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ）
- 【運行時間】 下り 下館駅10:35発～茂木駅12:06着
上り 茂木駅14:26発～下館駅15:56着
- 【運行車両】 S L C12形66号
P C 50系 オハ2両、オハフ1両
D L D E 1 0 1 5 3 5 1 両

【S L もおか 近況報告】

◆「S L もおか」乗車100万人達成

真岡鐵道「S L もおか」は令和4年6月26日に100万人目の乗客を迎え、真岡駅にて記念式典を開催しました。式典では真岡鐵道（株）社長の石坂真岡市長と100万人目の乗客となった小学校2年生の大塚君がくす玉を割って記念の日のお祝いをしました。

また、7月に乗車100万人達成記念ヘッドマークを装着してS L の運行をしたほか、乗車100万人達成記念入場券セットの販売を行いました。



▲記念ヘッドマーク



▲乗車100万人達成記念入場券セット

◆イベント列車「S L ましこ」を運行しました。

真岡鐵道は、3年ぶりに開催される益子町「春の陶器市」の応援企画として、令和4年4月29日から5月8日の期間におけるS L 列車を

「S L ましこ」と題し運行しました。

期間中は益子焼をイメージしたヘッドマークを装着し、区名札も通常「真岡」となっているものを「益子」に変更して運行しました。

また、5月3日と4日の2日間はS L に乗車したお客様に益子焼で作成した特製の乗車記念証を配布しました。



▲益子焼乗車記念証

団体名

一般社団法人

あしおトロッコ館

〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
(古河足尾歴史館内とわたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホーム周辺)
URL: <https://www.furukawakk.co.jp/ashio>
新!! E-mail: ashiotoro@gmail.com
担当者: 総務担当 岡本憲之



▲毎年開催される「わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション」の足尾駅を長年担当しているのが【あしおトロッコ館】です。



◀他では見られない、会員手作りの鉄道模型の車両からジオラマまで、あしおトロッコ館室内展示場(古河足尾歴史館2階)に多数展示しています。



▲左先頭は1トン丸菱電機製の蓄電池機関車。その後ろは加藤製作所製4トンディーゼル機関車。真ん中には、当団体の主役である足尾のガソリンカー編成。いずれも軌間610mmで動態保存車両。左は井笠鐵道ドイツ・コッペル社製7号蒸気機関車(静态保存機)軌間762mm。

新型コロナウイルス感染症予防に努めつつ、あしおトロッコ館(古河足尾歴史館)とわたらせ渓谷鐵道足尾駅貨物ホーム構内の2か所で活動しています。いずれも古河機械金属・わたらせ渓谷鐵道・日光市・足尾町民各位の深いご理解と協力のもと、保存活動を続けています。

【一般社団法人 あしおトロッコ館の活動状況】

その1 古河足尾歴史館 野外

足尾ガソリン軌道歴史館線とトロッコ展示場

●イベントはありませんが、毎月第一土・日のガソリンカー運行は続けております。

その2 古河足尾歴史館 2階

あしおトロッコ館室内展示場

●古河足尾歴史館開館日は公開。

その3 わたらせ渓谷鐵道 足尾駅

動態保存車両(軌間1067mm)

●一般公開は休止中ですが、整備は継続中。12月からのイルミネーションが行われます。

最新情報【加悦SL広場からの加藤さんと貨車】

2020(令和)年3月末で閉園となった京都府与謝野町「加悦SL広場」。この施設に保存されていた加藤製作所製6.5トンディーゼル機関車は、同形機が国鉄足尾線の足尾本山駅(現在は廃止)の構内でも活躍していました。

そこで【あしおトロッコ館】として、同機と共に保存されていた2軸無蓋貨車ト404も併せて譲り受け、足尾の地で保存を続けることにしました。「加悦SL広場」の運営会社である宮津海陸運輸株式会社(日本冶金工業株式会社・NASグループ)からも快諾を頂き年内には移動を行う予定です。運搬費用をまかなうための募金活動始めています。



団体名

鹿島鉄道保存会 ＜鹿島鉄道記念館＞

〒113-0033

東京都文京区本郷 2-40-14 山崎ビル 3 階 (株)バレア内

TEL 03-5802-2755 FAX 03-3818-2700

URL <https://www.facebook.com/kashitetsu>

代表者: 加藤

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～鉾田間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。

【保存車両】

キハ714 (昭和28年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)

KR-501 (平成元年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)

キハ431 (昭和32年東急車輛 元加越能鉄道キハ125)

【保存建物】

玉里駅上りホーム待合室

ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵

【活動報告】

コロナ禍の影響もあり、令和2年11月に茨城県空港対策課との協働により、茨城空港ビルで開催した鹿島鉄道写真展・鹿島鉄道記念館の特別公開以降、活動をほぼ休止していました。

本年3月に廃線15周年を迎え、また、鹿島鉄道の前身である鹿島参宮鉄道株式会社(現在の関東鉄道株式会社)の創立から100周年となることから、関東鉄道株式会社及び鹿島鉄道株式会社のご協力の下、鉾田駅保存会と共催で「鹿島鉄道回顧写真展・資料展」を水戸市内で開催(8月14日～28日)しました。また、秋には何らかの記念行事を開催したいと考えています。

■「鹿島鉄道廃線15周年展」(R4.8.14～R4.8.28) 於: アートスペース月虹舎(水戸市)



■鹿島鉄道記念館の展示内容を Facebook にて AR 公開中 (茨城県公認 VTuber 茨ひよりさん)



キハ601とKR-505の保存活動をしています



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線（2011-01-16）

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の2両の気動車(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

キハ601は昭和11(1936)年川崎車輦製のキハ42032(後のキハ07)で、鹿島鉄道廃線時には全国で最古の営業用気動車でした。2024年に米寿を迎えます。

鹿島鉄道の開業は大正13(1924)年であり、開業100周年も2024年となるため、祝賀イベントの実施を検討しています。(鉾田までの全線開業は昭和4(1929)年)

KR-505は平成4(1992)年新潟鉄工製の鹿島鉄道独自の気動車で今年製造30年となりました。

当会は、2両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開と、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は廃線後の2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

当初、鉾田駅保存会は賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動をしていました。

その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、2両を保存することになり、当会は2両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。2010年度より、現在地での車両公開イベントを開始しています。

2011年の東日本大震災で路盤の液状化により道床の破壊と車両の傾斜・床下機器損傷等の被害を受けました。車輛を一時的に移動して道床の復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し、2012年3月より当会は公開イベントを再開しました。

以後4～11月の第4日曜日の定期車両公開イベントを継続実施してきました。並行して天候の比較的安定した12～3月に全塗装等の大規模補修作業を行い、その他の保守作業は随時実施してきました。

2020・2021年度は新型コロナの感染防止対応で、状況を熟慮しつつ条件の整った場合は公開を実施しました。

今年度は、廃線15周年、鹿島鉄道の前身である鹿島参宮鉄道の会社設立100周年にあたることから、水戸市内において鹿島鉄道保存会さんとの共催で「鹿島鉄道廃線15周年展」を実施しました。

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料・書籍の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) KR-505車内でのプラレール遊び
- (4) キハ601車内での鉄道模型展示・運転
(鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等)
- (5) 5インチ乗用鉄道の体験乗車
(16m×12mオーバルほか)

また、鉾田市や商工会主催の『鉾田うまかつペフェスタ』『ほこたマラソン』『鉾田花火大会』『ほこたいっぱいマルシェ』や、『石岡市商工祭』などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。現在は地域行事がコロナ対応のため縮小傾向であることから、酷暑期と冬季を除く月1度、小美玉市の茨城空港そばの『空のえきそ・ら』での出張広報活動を実施しています。

今年度は4月から車両公開を開始しました。7～8月の夏時間での公開では、キハ601の前照灯・室内灯の点灯と警笛の吹鳴を行いました。

また、前記の様に「鹿島鉄道廃線15周年展」を水戸市内で開催しました。

今後の公開は9/25・10/23・11/27に実施予定です。

廃線から15年が経過し、毎年補修・塗装を行っているとはいえ、車両の劣化も進んでいます。

ただ錆びを落とし塗装をするだけでは凌げない箇所も多々あり、技術力(防錆・溶接等)の向上と補修用機器(溶接機等)の導入、そして人員の強化が変わらぬ課題です。

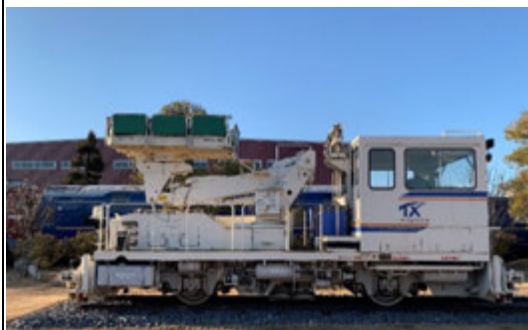


前照灯・室内灯を点灯したキハ601

団体名	ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)	〒308-0811 茨城県筑西市ザ・ヒロサワ・シティ 広沢商事株式会社 観光部 内 Tel : 0296-45-5601 Fax: 0296-45-5602 URL : http://shimodate.jp/rail_top.html Email : honten@hirosawa-shoji.co.jp 担当者: 松本、野口
-----	------------------------	---

◎テーマパーク全体のネーミングが「ユメノバ」に決定し5月に発表しました。
現在、オープンに向けた準備作業を進めています。

●電気軌道内作業車が仲間入りしました

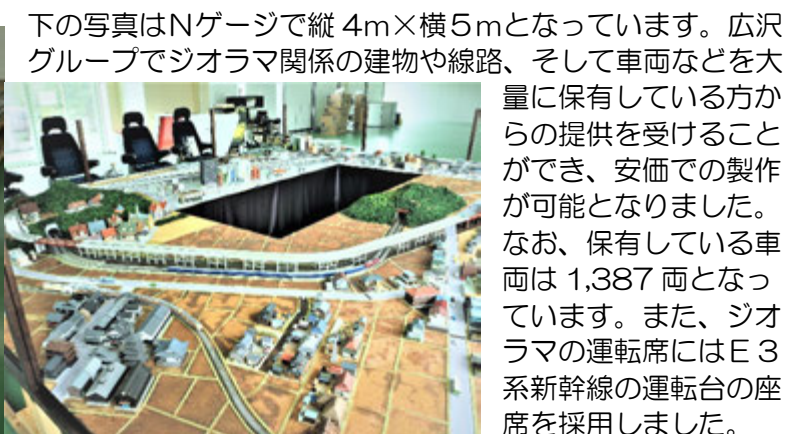
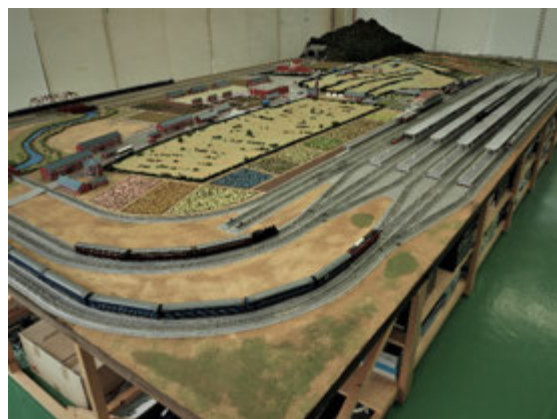


2021年12月23日に首都圏新都市鉄道株式会社（TX）様から、レールパークで12両目となる鉄道車両（電気軌道内作業車）を搬入しました。

作業床面の最大の高さは9.4mまで可能で、TX 守谷総合基地で毎年開催されている「つくばエクスプレスまつり」では多くの見学客に喜ばれたとのことでした。

ザ・ヒロサワ・シティでも、安全面を確保した中で、有効活用を図っていきます。

●ジオラマ館の整備を進めています



上の写真はHOゲージで縦4m×横8mとなっており、ザ・ヒロサワ・シティの風景を再現したものになっています。なお、保有車両286両の中には、北斗星車両のみならず、関東鉄道のキハ101、102や、真岡鐵道のでSL編成も製作し走行させています。

●鉄道資料館の建設を進めています



ザ・ヒロサワ・シティでは、鉄道資料館の整備を進めています。この資料館の中には、茨城県内を営業区域としている

- ・ひたちなか海浜鉄道
- ・鹿島臨海鉄道
- ・関東鉄道
- ・真岡鐵道
- ・つくばエクスプレス
- ・JR東日本水戸支社

の6社からの展示協力をいただきました。また、当館の特に珍しい展示物としては、

- ・現美新幹線 16号車連結器カバー
- ・現美新幹線 11号車座席（2席）
- ・北斗星車両購入時の付属品
- ・諸河久様提供の蒸気機関車写真展示

などがあります。
（雑然とした作業中の現場写真です）

団体名	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : https://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長 小崎 正人
-----	-------------------------------	---

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパEF63形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経路に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道の広場です。今年で開園21年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早24年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月のお盆過ぎまで、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も2,942人が受講されています。2021年度は57名の受講者（内、女性2名）があり、のべ3,239回の体験を楽しめました。また、通算500回以上運転された方が6名おります。2021年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しんでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響で入園者数が減少しており、20時まで営業を延長する「ナイトパーク」や屋外展示車両広場で1泊のキャンプイベントを開催し、密になる状況をできるだけ避けたイベントなどを行い集客に努めています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



ナイトパーク



キャンプイベント

団体名	一般社団法人電鉄文化保存会	〒 152-0023 Tel : 090-6186-6135 Fax : 03-5701-2753 URL : http://snowy-saito-7755.zombie.jp/ Email : interurbanmuseum.tokyo@gmail.com 担当者：岩崎直彦
-----	---------------	---

一般社団法人電鉄文化保存会は、現在東急電鉄の鋼製車の保存活動を行っています。

1. 活動報告

2021 年

7 月 コロナにより作業が出来ない状態が続いていた車両修復を開始いたしました。

10 月 18 日～12 月 18 日

日本保存鉄道組合総連合会クラウドファンディングにて、募金活動を実施いたしました。

総勢 60 名の支援者から、総計 1,068,000 円のご支援をいただきました。

2022 年

4 月 17 日

群馬県前橋市富士見町皆沢にて、車両公開を実施いたしました。

2. 2022 年度の作業報告

1) デハ 5000 系の塗装修復作業を昨年度より継続して行っています。



2) 屋根の腐食について修復作業を行いました。



修復前



修復後

3. 今年度の今後の事業予定

- ・ 現在作業を休止しているデハ 3499 号の修復を再開いたします。
- ・ 10 月開催を目標として、修復作業中間報告会として見学会を計画いたします。
- ・ 電鉄文化保存会の支援団体を設立し、その会員募集を開始いたします。

団体名	日本工業大学 工業技術博物館	〒 345-8501 TEL : 0480-34-4111 FAX : 0480-33-7570 URL : http:// museum.nit. ac. jp Email : museum@nit. ac. jp 担当者：五月女 浩樹
-----	--	--

現在わが国の工業技術が世界最高レベルなのは先人達が懸命な努力をし続けてきた賜物であり、その経緯と成果に触れつつ技術発展を図る『温故知新』が工業技術の教育・研究開発には不可欠である。

そこで、学園創立80周年記念事業の一つとして1987年度に開設された当博物館では、国内外の先人達の成果である機械等を調査・収集・保存・展示することで、技術史研究の場を提供するとともに工業技術の教育・研究・啓蒙に貢献することを目的として、下記の諸活動を行っている。

- 1) わが国の経済発展に貢献した工作機械を主体に、機械機器類を調査・収集し、整理して保存・展示を行う。
- 2) 常設展示とは別に、年1回、中核である工作機械や身近な工業製品の技術をテーマとした特別展を開催する。
- 3) 国内外の技術の変遷を理解する上で必要な書籍・文献・関連資料（図面等）の収集を行い、整理して保存する。
- 4) 技術の変遷に関する記事、当博物館の活動、収蔵品の紹介などを掲載する『工業技術博物館ニュース』を発行する。

開設以来、収蔵品の数が年々増大するとともに質も向上してきており、現在、常設展示品だけで機械機器類大小合わせて500点以上に達している。特に約270台もの工作機械を保存展示し、そのうち約70%が動態保存であること、工場形式の展示も数点あること、機種別・年代順に展示し変遷が理解できることなどが、国内外の他の類似の博物館には無い大きな特長である。

生産機械以外では、国家プロジェクトで開発され世界最高効率を実証した大型ガスタービン、1891年に英国で製造され、長年わが国で活躍した**蒸気機関車2100形-2109号**、1919年に製造され、100年間にわたり箱根登山鉄道で活躍した**登山電車モハ1形103号**、2007年の学園創立100周年記念事業の一つとして調査・復元した**日野式2号飛行機**（レプリカ）なども展示している。蒸気機関車については、動態保存して、キャンパス内に敷設した軌道上で時折有火運転し、鉄道ファンだけでなく、多くの皆様楽しんで頂いている。



SL2109号とそのミニ写真展開催風景



新開設のホームページ

2109号蒸気機関車について

英国 Dübs 社製の蒸気機関車 2109号は、2021年に130歳を迎えた。これを機会に、「くろがねの勇者 2109号」と題したミニ写真・資料展を2022年3月24日より弊館 SL 館内において開催した。

機関車の運転については、新型コロナウイルス感染症に注意をして、オープンキャンパス等で行っている。運転日時等の詳細は、ホームページにて随時公開をしている。

工業技術博物館ホームページ開設

2022年6月28日にオリジナルオリジナルのホームページを開設した。

URL : [http:// museum.nit. ac. jp](http://museum.nit.ac.jp)

ホームページでは、「工作機械」「復元町工場」などカテゴリごとに多くの写真で展示品を紹介している。また、初心者にもわかりやすく工作機械について学ぶことができ、「NEWS & EVENTS」のコーナーで蒸気機関車 2109号や5インチゲージのミニトレインの運転日時についても公開されている。

団体名	秩父鉄道株式会社	〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町一丁目 1 番地 Tel : 048-523-3337 Fax : 048-526-0551 URL : http://www.chichibu-railway.co.jp Email : syaryo@chichibu-railway.co.jp 担当者：木村 壮史
-----	----------	---

《 2022 年 7 月 20 日 SL パレオエクスプレス祝 2900 回運行 》



秩父鉄道 SL パレオエクスプレスは今年運行 2900 回を迎えることができました。ここまで続けてこられたことは、多くのお客様をはじめ、関係者の方々のご支援、ご協力によるものと感謝申し上げます。

C58363 (シゴハチサンロクサン) はかつて東北地方などの旧国鉄 (現在の JR) で活躍した SL です。昭和 47 年に現役引退後は、吹上町立吹上小学校 (現、鴻巣市立吹上小学校) の校庭で小学生と一緒にのんびりと余生を送っていましたが、さいたま博覧会 (昭和 63 年 3 月 19 日から 5 月 29 日まで熊谷市で開催) にあわせて「SL 運行を！」の声があがり、その大役に C58363 が抜擢されたのです。

昭和 62 年に車籍を復活。昭和 63 年に秩父路の SL パレオエクスプレスとして誕生しました。

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番 Tel : 048-651-0088 Fax : 048-651-0570 URL : http://www.railway-museum.jp/
-----	--------------------------------	---

鉄道開業 150 年記念企画展 「鉄道の作った日本の旅 150 年」を開催

○鉄道博物館では、鉄道開業 150 年を記念し、鉄道の開業、発展により、その姿を大きく変えてきた日本人の「旅」と「鉄道」との関わりを振り返る企画展を開催します。

○本展では、鉄道開業前から 1940 年代までの旅を前期、1950 年代から現代までの旅を後期として、2 期に分けて開催します。

○また、本展の開催に合わせ当館所蔵の貴重資料を特別公開します。

1 会期 2022 年 7 月 23 日(土)～2023 年 1 月 30 日(月)

※前期：7 月 23 日(土)～10 月 24 日(月)

鉄道開業前～1940 年代までの旅を紹介

※後期：10 月 29 日(土)～1 月 30 日(月)

1950 年代～現代までの旅を紹介

2 会場 鉄道博物館 本館 2F スペシャルギャラリー

3 展示内容

鉄道が開業する以前、陸路の移動は一部籠や馬によるもの以外は、徒歩によるものでした。しかし 1872(明治5)年の鉄道開業以来、徐々に鉄道をはじめとする乗り物による移動にシフトしていきます。以来 150 年、人々の移動は鉄道とともにあり、観光旅行はもちろん、出征や復員、疎開、集団就職といった時代を反映した移動もありました。本展では、こうした鉄道による長距離移動のすべてを「旅」ととらえ、日本人の「旅」と「鉄道」との関わりとその変遷の様子を、各時期のさまざまな出来事を取り上げながら振り返ります。



■【前期の展示】

会期：7 月 23 日(土)～10 月 24 日(月)

序章 鉄道開業前の旅

I 明治の旅

II 大正、昭和初期の旅

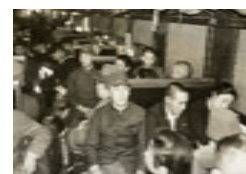
III 戦中・戦後の旅



明治 45 年 6 月に
運転を開始した
特急列車



昭和 6 年に初めて
登場した 3 等寝台車



2 人掛けの座席に 3 人
掛けが励行された戦
時中の列車内

■【後期の展示】

会期：10 月 29 日(土)～1 月 30 日(月)

IV 昭和後期の旅～1950・60 年代～

V 昭和後期の旅～1970・80 年代～

VI 平成、そして今



運転開始初日のビ
ジネス特急「こだ
ま」



修学旅行列車「ひの
で」運転開始



日本海沿いを行く
TRAIN SUITE 四季島

■珠玉の秘蔵資料特別公開

普段あまり展示することのない当館秘蔵の資料を 3 週間ごとに展示替えをしながら公開します。

会期 2022 年 7 月 23 日(土)～2023 年 1 月 30 日(月)



▲鉄道古文書
(国指定重要文化財)



▲屏風「碓氷峠」



長谷川利行「赤い機関車庫」

団体名	一般財団法人 東武博物館	〒 131-0032 東京都墨田区東向島 4-28-16 Tel : 03-3614-8811 Fax : 03-3614-8814 URL : https://www.tobu.co.jp/museum Email : kanri@tobuhaku.jp 担当者：管理担当：伊藤美千夫
-----	--------------	--

東武博物館は、新型コロナウイルスの影響により、臨時休館や時間短縮営業などを余儀なくされてきましたが、**2022年4月19日**より通常の営業時間に戻すとともに、休止していた館内設備も徐々に稼働を始め、ようやく従前の形に復帰しつつあります。

復元に向けて作業を行っていた C11 形 123 号機は、**2021 年 12 月 24 日**に無事火入れ式を行うことができ、各種調整の後、**2022 年 4～5 月**に南栗橋車両管区での構内試運転、**6 月 14 日**には 207 号機、325 号機と連結し 3 重連試運転を行うなどの準備を重ね、**6 月 29 日**からの営業線試運転を経て **7 月 18 日**に晴れて出発式を迎えることとなりました。(写真)

あらためて日本鉄道保存協会事務局様をはじめ、この間ご協力をいただいた皆様方に誌面をお借りして御礼申し上げます。

SL が 3 機体制となり、様々な運行が可能になりましたので、引き続き「鉄道文化遺産の保存と活用」「日光・鬼怒川エリアを中心とした新たな地域の観光活力創出」を推し進めていく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



火入れ式の様子 (2021 年 12 月 24 日)



3 重連試運転 (2022 年 6 月 14 日撮影)



C11 形 123 号機出発式 (2022 年 7 月 18 日)

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル 4 階 TEL : 03 (6380) 8511 FAX : 03 (3237) 1190
-----	-----------------------	--

2022 年「トラストトレイン」運行日ボランティアについて

9 月 10 日・10 月 1 日・12 月 3 日

＊いずれも土曜日に実施予定でしたが、大井川鐵道の都合により、全日程を中止しました。

＊2019 年度は 4 月～9 月まで計 5 回の運転を行い、ボランティア参加数 92 名という結果でした。(2020 年、2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で運行日を中止しました。)

〔区間〕 大井川鐵道 新金谷―千頭間 (37.2km)

〔運賃〕 新金谷―千頭 (片道 2,750 円・SL 急行料金含む)

〔保有車両の編成〕

C12 形 164 号蒸気機関車、スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車

〔運行時間〕

新金谷駅 11:52 発→千頭駅 13:09 着

千頭駅 14:55 発→新金谷駅 16:11 着

「トラストトレイン」の活動について

運行日のボランティア活動では、車両の清掃や運行補助のほか、活動を周知するためのパンフレット配布などを行っています。

他にボランティア間でミーティングも行い、活動を充実させるためには何をすればよいか、ボランティアや協力者を増やすにはどうすればよいかなど知恵を出し合い、行動に移しています。

また、夏場の運行日は「親子ボランティア」として実施し、次世代を担う子供たちに歴史的車両を守っていく楽しさや喜びを伝えるため、歴史的車両と触れ合う機会、保存・活用に関わっているボランティアの方々や大井川鐵道の鉄道マンの方々と交流する機会を設けています。

2017 年には、トラストトレインは運行 30 周年を迎えました。市民参加により動態保存されているこの貴重なトラストトレインを末永く維持管理するために、今後も皆様の温かいご支援をお願いいたします。



C12 形 164 号蒸気機関車



毎年好評の親子ボランティア

団体名	公益財団法人交通協力会	〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-5 新国際ビル 903 号 Tel : 03 6269 9808 Fax : 03 6269 9809 URL : https://www.transport.or.jp Email : suga@transport.or.jp 担当者：菅建彦
-----	-------------	--

沿革

当会の源流は、大戦中の 1943（昭和 18）年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。その頃、戦時経済のもとで紙が統制物資となり、いわゆる業界紙誌の発行が困難に陥っていました。陸運協力会は、これまで民間業者が発行していた鉄道関係の業界紙を統合して同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行を開始し、各種雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949（昭和 24）年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらはいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987（昭和 62）年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011（平成 23）年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類をデジタル版として復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ <https://transport.or.jp> の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道百五十年史』編纂事業

今年 10 月 14 日、わが国鉄道の創業 150 年を迎えます。『日本鐵道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂に備えて、当会は 2012 年以来調査・研究活動を進めていました。

鉄道省も国有鉄道も存在しない現在、編纂と刊行の主体をどうするか、資料の収集と保存をどうするか等の難しい問題もありましたが、2015 年 11 月から当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させ、審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史（全 5 巻および資料編 1 巻）を編纂し、2022 年度に刊行することが決まり、2017 年 4 月、東京大学名誉教授原朗先生を委員長とする『鉄道百五十年史』編集委員会が発足しました。当会は編集委員会の事務局を務め、完成した『鉄道百五十年史』を当会の名で出版します。3 億円をこえる事業費は、JR 各社のほか民鉄など鉄道事業者、鉄道と関係の深い諸団体や企業などからの寄付で賄い、文字通りわが国鉄道関係者の総力を結集した事業となっています。

編集委員会は 2 年間にわたる議論を経て全巻の詳細な記述内容を確定し、各巻 2 名の編集委員（経営史、技術史の専門家各 1 名）計 10 名のほか、約 60 名の分担執筆者が加わって、執筆を始めました。巻別の内容は、第 1 巻「創業から国有鉄道の誕生まで」、第 2 巻「帝国の鉄道の形成・発展・崩壊」、第 3 巻「復興期から高度経済成長期の鉄道」、第 4 巻「交通市場の変容と国鉄の経営危機」、第 5 巻「JR と民鉄の時代」となっており、1949 年の日本国有鉄道発足から 1987 年の国鉄改革までの約 40 年間に 2 巻を充て、この時代に特に重点を置いた構成になっています。『日本国有鉄道百年史』がいわば旧国鉄の「社史」であったのに対し、『鉄道百五十年史』は旧国鉄・JR のほか民営、公営の鉄道を含む「産業史」を目指すものです。また、数多く刊行されている私鉄各社の社史において殆ど無視されている技術史にも多くのスペースを充てるほか、グローバルな視点から日本の鉄道の発展史をとらえることを目指しています。

原稿執筆は順調に進んでいましたが、一昨年来のコロナ感染症蔓延のため図書館などが閉館となり資料調査に支障を来すなど予期せぬ困難が生じたため、やむなく約 1 年延期し、2023 年度に刊行することとしています。

団体名	「横浜市電 1156 号保存会」	〒231-8445 Tel : 090-9015-3707 / 090-8036-2383 Email : yokohamashiden1156@gmail.com 担当者：齊藤 大起（さいとう ひろき） https://yokohamashiden1156.jimdofree.com/
-----	------------------	--

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらき）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、毎月 1 回、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。



▲輝きを取り戻した現在の 1156 号



▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者（齊藤）が、荒廃していた 1156 号が解体されとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポールトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

2020 年 12 月からは、横浜市電の運転・運行管理を楽しめるゲームアプリ「追憶の電車通り」（App Store, Google Play からダウンロード）の広告収益を、維持費に充当する仕組みも始まっています。



■横浜市電とは

1904（明治 37）年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◀窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

団体名	公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテイジ)	〒 231-0012 横浜市中区相生町 3 丁目 6 1 泰生ビル 4 0 5 号室 Tel/Fax 045-651-1730 URL : http://www.yokohama-heritage.or.jp/ Email : yh-info@yokohama-heritage.or.jp
-----	----------------------------------	--

公益社団法人横浜歴史資産調査会の仕事

公益社団法人横浜歴史資産調査会は、内閣府認定の公益社団法人です。横浜市を含む全国の歴史的資産の調査、保存活用、普及啓発に関する事業に取り組んでおります。

横浜は、安政 5 年（1858）の日米修好通商条約により開港し、以後我が国の貿易拠点として発展しました。輸出品の多くは生糸。品質の良い生糸は特に欧州で人気を博し、莫大な富を持たりました。その生糸の産地は、東北や関東甲信越をはじめ全国に分布。繭玉から製品化された生糸を横浜に運んだのは鉄道でした。

当公益社団では、横浜の発展に大きく寄与した生糸と鉄道に関連した事業を推進しております。例えば、日本鉄道保存協会やシルクロードネットワーク協議会の代表幹事団体として事務局を担っており、また、関連の調査事業等も行っております。

◎2020年鉄道150周年記念事業の推進

明治 5 年（1872）新橋－横浜間に鉄道が開業して150周年を迎えるのを機に「鉄道150周年記念事業」を行います。この事業は、公益社団法人横浜歴史資産調査会と日本鉄道保存協会と力をわせて行います。



「私たちのまちの鉄道遺産」展示会

事業内容

- ・鉄道開業 150 周年記念事業委員会の設置と開催
委員長 古賀 学(当公益社団理事・松陰大学教授)
- ・記念ロゴマークの作成
- ・「私たちのまちの鉄道遺産」
横浜・神奈川を中心に
写真展示 令和 4 年 8 月 30 日～9 月 16 日
- ・「鉄道の記憶」
A 4 判カラー 58 ページの発行・配布
- ・「全国近代化遺産活用連絡協議会 鉄道遺産部会」
横浜フォーラムの開催 令和 4 年 9 月 15 日
- ・「日本鉄道保存協会総会・講演会・シンポジウム・見学会」の開催
令和 9 月 16 日、17 日
- ・「歴史を生かしたまちづくりセミナー」の開催
—鉄道の記憶を生かした横浜のまちづくり—
令和 4 年 9 月 18 日

◎湘南電気鉄道（京浜急行電鉄の保存対策調査）

横浜市金沢区・金沢八景駅構内

昭和 5 年（1930）に開業した湘南電鉄の瀬戸変電所の保存活用に向けた調査を 2017 年度より実施。鉄骨・鉄筋コンクリート造りのモダン建築は歴史文化的価値が高く、当公益社団が取得・保存し鉄道文化の交流拠点として再利用し、将来に亘り保存活用を目指してまいります。



昭和 4 年（1929）建造の瀬戸変電所

団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤 裕之
-----	------------	--

◆新津鉄道資料館概要

昭和 58 年、旧新津市が新津市鉄道資料館を開設しました。
平成 10 年 4 月、旧国鉄の鉄道職員研修所「新潟鉄道学園」を買い取って改修し、二代目新津鉄道資料館として現位置に移転しました。
平成 17 年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」となり、平成 26 年 7 月にリニューアルオープンしました。

200 系新幹線、C57 形 19 号機蒸気機関車、485 特急形電車、DD14 形液体式ディーゼル機関車、E4 系新幹線、115 系近郊形電車、新幹線確認車 GA-100 を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。



昨年、引退で注目された
E4 系新幹線と 115 系電車

◆施設概要

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車バスで 5 分。磐越自動車道新津 IC から車で 2 分
3. 建物 鉄筋 2 階建、延べ 1、764 m² (屋外展示場除く)
4. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約 800 点
5. 特色 実物車両 7 両展示、電車運転シミュレータ、ミニ SL (D51 形の縮尺 1/5) など

◆令和 4 年度事業

① 9 月 10 日～10 月 24 日

特別展「新潟を変えた新幹線 ―上越新幹線開業 40 年―」
開業前後の新潟県内の状況を、同時期に急速に整備された高速交通網との関わりから捉え直し、それらが新潟にどのような変化をもたらしたか紹介します。

② 4 月～10 月 土日・祝日を中心にミニ SL を運行

③ まちなか鉄道資料館

新津商店街に新津鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示 (SL 動輪・踏切警報機等)。商店街も各店で鉄道関連の品を展示

④ 鉄道模型走行会 新潟市内の鉄道模型愛好団体の協力を得て開催

⑤ その他 鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、実物車両車内公開 他



◆実物車両展示



200 系新幹線・SL C57 形 19 号機



新幹線確認車 GA-100



DD14 形機関車と 485 系電車



鉄道の仕組みコーナー



ミニ SL「にいつきてきち号」はお子さんに人気

団体名

長野県 上松町
赤沢森林鉄道

〒399-5601 長野県木曽郡上松町大字上松 159-4
上松町役場 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038
URL : <http://www.town.agematsu.nagano.jp>
Email : syoukan@town.agematsu.nagano.jp
担当部署 : 産業観光課商工観光係

1987年の復活運行開始から35年、赤沢森林鉄道は今シーズンもコロナ禍の困難な情勢の中、関係者のご協力を得て運行を継続しています。2021年にはツキノグマ傷害事故と8月豪雨災害の影響を受けました。利用者は一昨年よりやや増えたとはいえ、例年の半数以下が続いています。

そんな厳しい中でも、赤沢森林鉄道は上松町の宣伝に一役買っています。



2021年は長野県のゆるキャラ合戦が催され、上松町観光協会でも動画を作成して応募しました。残念ながら賞は逃しましたが、キャラクター達を交えた話題性は十分あったようで、「面白い」とのご好評を数多く頂戴しました。森林鉄道はキャラクターたちが駆け回る舞台として裏方に徹していましたが、客車から顔を出すキャラクターたちの絵は来園者の方々の歓声を誘います。

小さな列車とゆるキャラのコンビネーションは非常にコミカルで、かなりのインパクトを持っています。

次の機会にも温かい映像素材を提供したいと狙っています。

10月の紅葉シーズンには客足が例年並みに戻り、多くの観光客で賑わいました。赤沢自然休養林は木曽ひのきを中心とした針葉樹林ですが、ひのきは陽光を好むため、林内には多くの広葉樹が共存しています。特に森林鉄道の軌道沿いにはコハウチワカエデ、マルバノキ、シロモジなどが群生し、紅葉のトンネルを形成します。

紅葉の見頃となる10月20日前後には、「紅葉のトンネル走る森林鉄道」をカメラに収めようと多くのカメラマンが訪れ、撮影ポイントには十重二十重の人だかりが出来上がります。ちょうど同じ時期に、恒例となった車両撮影会も開催され、コロナ禍を忘れる賑わいを取り戻したひとときとなりました。

シーズンオフとなった12月、ミス日本みどりの女神が上松町を訪れ、赤沢自然休養林にも足を運びました。この時には森林鉄道への乗車はできませんでしたが、ミス日本の小林さんは木曽が辿った林政や人々の暮らしについて幅広く取材して下さい、翌2月に森林文化や森林浴を中心とした話題でインターネット番組として配信されました。

木曽森林鉄道は日本遺産にも認定されており、観光スポットとしてだけでなく、日本の近代化を支えた文化のひとつとして、国内外の多くの方々にその歴史を楽しんでいただきたいと思います。



【赤沢森林鉄道 運行情報】

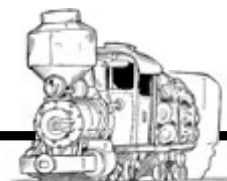
運行期間 : 2022年4月28日～11月7日 11月8日以降は冬期運休

運行時間 : 閑散期＝10:00～15:00まで1時間毎、 繁忙期＝9:30～15:30まで30分毎

料 金 : 中学生以上 900円、 4歳～小学生 600円 夏休みイベント期間は+200円

団体 15名以上 100円引き、 障がい者ご本人半額・介添え者団体料金

運行情報 : 上松町観光協会 <https://kiso-hinoki.jp/>



団体名

信濃追分駅舎・可惜（あたら）会

〒 389-0115

長野県北佐久郡軽井沢町大字追分 1092

Email : mm4007jp@yahoo.co.jp (河合)

信濃追分駅舎新聞 2022年(令和4年)7月 第3号 あたら会発行



Shinano-Oiwake Stationhouse Newspaper

信濃追分駅舎新聞



浅間山を背景にした高原の駅・信濃追分駅の上りホーム



光、緑があふれる朝の追分駅。この土地の歴史が静かに語りかけてくるたたずまい。多くの旅人を見送った分かれの道標(右)

●おまな出店
●(追分宿会場)
手打追分蕎麦・朝採り高原野菜・ジビエ
ドッグフード(鹿工房)・こだわりのパン
(カフェティノ)・イタリアン(暖)・クック
キー(佐久総合技術高校、ハロー)・コー
ヒー(カワナルマー、コネックス)・特
撰食品・調味料
(ファーマーズ
ギフト、つなぐ
ばとん)・雑貨
(アレース、雑
木林、ブラン
タゴ、ホーム
リースイート、
田村靴下)・ネ
イルケア(リユ
クス)
●(信濃追分駅舎
会場)
キッチンカー
(サンカフェ・
雑貨(シノルヨ)

このたびの日曜朝市実行委員会では、
地域の人たちの生活を支えてきた駅舎を
リスペクトし、百歳に向けての認識を広
め、今後の活用も模索しながら日曜朝市
の一角を駅でも開催し、駅舎カフェを
オープンします。駅舎内はギャラリーと
して、信濃追分在住だった鉄道写真家・
真島満秀氏の写真や、駅舎に関する多く
の著作があるフォトライター・杉崎行雄
氏のしなの鉄道沿線の駅舎写真が展示
される予定。また15年間、編集室として
駅舎を守ってこられた那須由莉氏によ
る「暮らしの手帖」バックナンバー展示も
予定されていて、高原の駅でのひととき
が楽しめます。

しなの追分日曜朝市
軽井沢町の西、かつては中山道と北国
街道がわかれる宿場として栄えた追分を
中心としたエリアは、美しい村・軽井沢
の中でも、自然歴史文化とともに、その魅
力を色濃く残す地区です。この夏、追分
地区で、夏のさわやかな朝を楽しむでも
うらおと「日曜朝市」が開催されます。
標高1000mの高原にある軽井沢町
おまひ周辺では、カフェを併設したペー
カリーや朝食を楽しむレストランが次々
にオープンしています。軽井沢ならではの

の朝の時間を過ごしたい人たちに楽しみ
がふえます。

●開催日時：7月31日、8月7・14・
21・28日。いずれも日曜日の7時12時

(駅舎会場は9時14時)

●おまな出店

●(追分宿会場)

手打追分蕎麦・朝採り高原野菜・ジビエ

ドッグフード(鹿工房)・こだわりのパン

(カフェティノ)・イタリアン(暖)・クック

キー(佐久総合技術高校、ハロー)・コー

ヒー(カワナルマー、コネックス)・特

撰食品・調味料

(ファーマーズ

ギフト、つなぐ

ばとん)・雑貨

(アレース、雑

木林、ブラン

タゴ、ホーム

リースイート、

田村靴下)・ネ

イルケア(リユ

クス)

●(信濃追分駅舎

会場)

キッチンカー

(サンカフェ・

雑貨(シノルヨ)

信濃追分駅舎カフェ

標高955mにある信濃追分駅舎は、
大正12年(1923)10月1日に初代停
車場から現在の場所に移転し駅として開
業当時の建物で、来年2023年に満百
歳を迎えます。ホームから浅間山が望め、
高原の山野草が咲く駅は、私鉄駅では最
高所の駅で、駅に降り立つ人の心を打つ
ほかにはない魅力があります。

駅舎は国鉄からしなの鉄道に移管され
てから無人駅になりましたが、しなの鉄
道の理解を得て、この駅を愛する人た
ちに見守られています。

このたびの日曜朝市実行委員会では、
地域の人たちの生活を支えてきた駅舎を
リスペクトし、百歳に向けての認識を広
め、今後の活用も模索しながら日曜朝市
の一角を駅でも開催し、駅舎カフェを
オープンします。駅舎内はギャラリーと
して、信濃追分在住だった鉄道写真家・
真島満秀氏の写真や、駅舎に関する多く
の著作があるフォトライター・杉崎行雄
氏のしなの鉄道沿線の駅舎写真が展示
される予定。また15年間、編集室として
駅舎を守ってこられた那須由莉氏によ
る「暮らしの手帖」バックナンバー展示も
予定されていて、高原の駅でのひととき
が楽しめます。



国鉄時代の
復刻駅スタ
ンプ設置



国鉄時代の信越本線軽井沢-中軽井沢を走る特急「あさま」
撮影/真島満秀

信濃追分駅舎百周年
プレイベント
●8月27日(土)・28日(日)
●9時~15時
●信濃追分駅便券入場券
●スタンプ台紙付き信濃追分
軽井沢往復記念乗車券
●復刻国鉄時代信濃追分駅・軽
井沢駅スタンプラリー実施
●鉄道部品抽選販売会

団体名

足久保鐵道株式会社

〒

Tel : 054-207-7444 Fax :

URL :

Email : tamai-h@tokai.or.jp

担当者：玉井宏政



動態化へ向けて蒸気ドーム取り外し



内部は非常に良好でした



亡失していた蒸気ブレーキハンドルを自作



袋ナットを含め自作で復元



用地取得



新線敷設

他、福島県柳津町只見線活性化協議会の C11244 号汽笛復元等、充実した活動ができました。

団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 Tel : 0547-45-4113 Fax : 0547-45-4115 URL : oigawa-railway.co.jp Email : koji.sakamoto@daitetsu.jp 担当者：坂本光司
-----	-----------	---

本年度も「きかんしゃトーマス号」2022年4月29日～9月25日までの80日間運転を実施。トーマス運行9年目にして、はじめてゴールデンウィークからのスタートとなりました。

2022年12月16日～12月19日・12月23日～2023年1月3日・1月6日～1月9日までの20日間は冬のトーマスとして運転いたします。

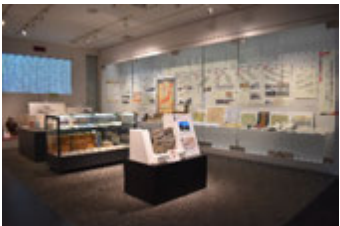
本年2月兵庫県加東市より、県立播磨中央公園に静態保存されておりましたC56135号機を譲渡いただきました。今後は動態化に向けた作業を行っていく予定です。



本年度トーマスイベントの新キャラクター「きかんしゃトビー号」が8月19日より井川線に初お目見えとなりました。9月25日までのトーマス運行日と冬のトーマス期間に合わせて運転いたします。

奥大井湖上駅で星空観賞お楽しみいただく、星空列車を2022年11月～2023年2月までの（12月31日～1月1日を除く）土・日曜日を運転いたします。



団体名	東海旅客鉄道株式会社 リニア・鉄道館	〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3 丁目 2-2 TEL 052 (389) 6100 https://museum.jr-central.co.jp/
○入館料 大人 1,000 円 (団体 800 円) 小中高生 500 円 (団体 400 円) 幼児(3歳以上) 200 円 (団体 100 円) ※障がい者手帳をお持ちのお客様と付添の方 大人 500 円、高校生以下 200 円 ○休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始/12月28日~1月1日 ○展示 鉄道車両 39 両+バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、 超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、 シミュレータ、シアターなど		
 【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】		
【2021~2022 年の記事】 ☆国鉄バス第 1 号車が重要文化財に指定 (2022/3/22) 乗合自動車事業の発展や自動車一般の国産化に多大な貢献を果たし、 交通史上・産業史上において価値が高いと評価を受け、指定された。 ○第 11 回企画展 (2022/3/16~2023/1/31) 『東海道新幹線の進化 ~300 系新幹線電車のデビューと果たした役割~』 ○特別展 (2022/6/22~12/26) 『鉄道開業 150 年特別展 ~日本の鉄道誕生と東海道本線の高速化~』 ○技術展示 (2022/6/22~2023/6/12) 『ベアリングの“わざ”』 ○館内 SDGs パネル設置 名古屋市と協力して、SDGs の取り組みを紹介する パネルを設置 ○新規館内ガイドツアー 「超電導リニアの走る・浮くしくみ」 「リニア・鉄道館×SDGs」 「デビュー30周年! 300系」 ○ワークショップ 「新幹線のオリジナル時計を作ろう!」 「オリジナルバッジをつくろう!」 「超電導リニアの模型をつくって、うかせよう!」など ○その他 新幹線車両のアルミリサイクル展示 (～2022/6/20) 鉄道の標記文字のひみつ特別展 鉄道友の会写真展 など		
		 国鉄バス第 1 号車
		 鉄道開業 150 年特別展
		 技術展示「ベアリングのわざ」
		 新幹線のオリジナル時計をつくろう!

団体名	公益財団法人 博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆
-----	--------------------------	---

<蒸気機関車>

- 2020 年 9 月、SL12 号オーバーホール整備終了後の試運転実施中に第 2 動輪の板バネの破断を確認した為、現在修理中。
- SL12 号故障中の為、SL9 号を使用して動態展示を実施中。
※メンテナンスのため運休日あり。
- 転車台不具合の為、SL 名古屋駅発 SL 東京駅行は逆機運転で運行中。※現在、転車作業は実施していません。
- 2023 年に SL9 号オーバーホールを(株)東海汽缶で実施予定。
- ボイラー検査を SL9 号 8 月 4 日 (木)、SL12 号 9 月 8 日 (木) に実施。



<京都市電>

- 1 月に 2 号車のトロリポールの一部部品が破損した為、新たに部品を製作して 7 月の休村日に取付作業を実施。7 月 30 日(土)より動態展示を再開。

<動態展示物 3 か月点検 (SL、京都市電、ハフ 11・13・14) >

- (株)JR 西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

<設備工事・点検>

- 名鉄 E I エンジニア株式会社による電路・電気設備点検を半年に 1 回実施。
- 矢作建設 (株) による軌道点検整備を半年に 1 回実施。

<蒸気機関車及び京都市電の動態展示>

蒸気機関車※SL9 号と SL12 号のどちらかが 3 両の客車を牽引します。

片道 大人 500 円 小学生 300 円

京都市電※1 号車と 2 号車のどちらか 1 両が運行します。

1 乗車 大人 500 円 小学生 300 円

SL 市電一日券

乗り降り自由 大人 800 円 小学生 500 円



団 体 名	NPO 法人 愛岐トンネル群 保存再生委員会	〒 487-0004 愛知県春日井市玉野町 1660-1 Tel : 090-4860-4664 Fax : なし URL : http://aigi-tunnel.org/ Email : muramasa@mc.ccnw.ne.jp 担当者：村上 真善
----------	--------------------------------------	--

開始 4 年目の本気！ 全国でも珍しい？ 文化財トンネルの ビアホールは好評でした。

愛知県下の 30 万人都市・春日井市。お隣の岐阜県と県境を接する溪谷の山腹に、120 年前に開通した旧国鉄中央（西）線の廃線と 13 基ものレンガトンネルが眠っていた。

その施設群を揺り起こし、目覚めさせて 16 年。春と秋の特別公開以外は“立ち入り禁止”場所だが、せっかく再生させたのだから“モッタイナイ”と、下界に比べ 10 度も低いトンネル内の気温を逆手に企画した夏限定「全国初！トンネル内でビアホール」を開催している。



しかししかし、開催 2 年目からコロナ渦という逆風が吹き荒れ、2 年連続中止。満を持した今年も 7 人？目の刺客・新型コロナ来襲の憂き目に遭遇してしまった。

しかし、おっとどっこい！今回は強硬突破とばかりごり押し開催。

アルコールに飢えた人々の賛同に支えられて 8 月末までの週末限定開催が不成功裡に。

脱コロナ後の、来年の更なる盛り上がり期待して（ソロバンをはじいて）いる。

産業遺産・近代化遺産という「歴史的価値」、持続的保存・安定を目指す「経済的価値」の追求。この両輪に支えられてこそ、列車は走ることができるのです。

（秋の特別公開は 11 月 26 日～12 月 4 日の 9 日間を予定している。）

※ちなみにビアホールのホールは、ここでは hall（大広間）ではなく、hole（穴）のこと。



団体名	NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク	〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2 Tel : 090-7020-5852 Fax : 0578-82-6677 URL : https://rail-mtb.com/ Email : info@rail-mtb.com 担当者 : 田口 由加子
-----	-------------------------	---

船津トンネルの補修工事・トンネルまでの枕木交換事業が完了し、「おくひだ号 運転体験」のコースが、

神岡鉱山前駅より猪谷側（北側）に 975m 延伸しました

この船津トンネルは長さ 675m、「飛騨市ふるさと納税」の「レールマウンテンバイクによる地域振興事業」の枠でご寄付をいただいたお金で令和 2 年度に補修工事をさせて頂きました。その後、昨年の令和 3 年度と今年（R4）の春にトンネルまでの枕木交換を済ませ、今年の春から運転体験コースの新コースとして使用しています。この新コースは、975m のうち約 7 割がトンネルという、「奥飛騨の地下鉄」であった旧神岡鉄道らしいコースです。



現在、おくひだ号は 1 号・2 号の順番で A 制御弁とブレーキ弁のオーバーホールを行っているため、不測の事態に備え本線には出せない状態ですが、9 月からはレールマウンテンバイクの本線に、また 11 月末からは奥飛騨温泉口駅から 4 km 弱の距離の運転体験も開催を予定しております。この 4km のうち約 1.5km がトンネル、高架橋 1 つ、駅が 4 つ、タブレット交換は神岡鉱山前駅にて○から△です。

2022 年 6 月 5 日 枕木交換会を開催しました

コロナ禍で 2 年間開催できなかった、一般公募の枕木交換会を今年はやっとで開催することが来ました。総勢 35 名様に初夏の日差しの中、半日かけて 5 本の枕木を交換して頂きました。今年はファミリー層が多く安全重視でのんびり作業でしたが、中にはプロの保線女子もいらっしゃって本気の交換作業も披露して頂きました。





名誉館長 米山 淳一(日本鉄道保存協会 事務局長)
館長 今井 克美(公益社団法人長浜観光協会 専務理事)
担当者 梅園 いづ子(公益社団法人長浜観光協会)

●旧長浜駅舎 明治15年3月10日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。昭和58年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。令和2年6月19日、旧長浜駅舎を含む鉄道遺産「海を越えた鉄道 ～世界へつながる 鉄道のキセキ～」が認定されました。

●長浜鉄道文化館 公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として2000年10月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

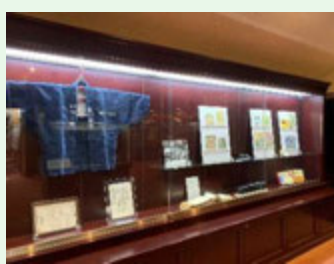
●北陸線電化記念館 鉄道文化館と同様の趣旨で2003年7月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示しています。



令和3年度 開催企画展・イベントなど

【企画展】

- 関田克孝コレクション「子供たちの見た東海道線の旅～絵本、図鑑でたどる100年～」【2021/2/27～2022/7/11】
- おもちゃ鉄道模型展 2021 【2021/7/22～10/31】 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月27日～9月30日は休館
- ～長浜駅開業140周年直前記念～ 駅弁掛け紙の世界 【2021/11/3～12/28】
- 第1回長浜鉄道スクエア鉄道写真コンテスト作品展 【2022/1/9～3/31】



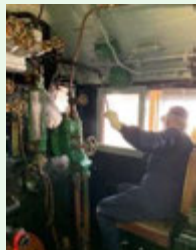
第1回長浜鉄道スクエア写真コンテスト
最優秀賞「雪国の灯り」

【日本遺産認定に関するリニューアル】

令和2年に日本遺産に認定されたことにより、令和3年度には、長浜鉄道文化館の展示を一部リニューアルしました。

令和4年度の事業・イベント

- 北陸線電化記念館に展示しているD51形蒸気機関車の汽笛を改修。6月から毎日正午に汽笛を吹鳴しています。
- 鉄道開業150周年・長浜駅開業140周年を記念し、イベントや企画展の開催を予定しています。



公益社団法人長浜観光協会

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町3-24 えきまちテラス長浜
TEL.0749-53-2650 FAX.0749-53-3161
E-mail: kankou@kitabiwako.jp <https://kitabiwako.jp/tetsudou>



団体名	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 (事務局：長浜市観光振興課)	〒526-8501 Tel：0749-65-6521 Fax：0749-64-0396 Email：kankouka@city.nagahama.lg.jp 担当者：川瀬 雄太
-----	---------------------------------------	--

○協議会概要

長浜市・敦賀市・南越前町に現存する明治時代の鉄道遺産など、近代化遺産を活用した広域的な観光連携を推進するため、平成29年10月19日に、長浜市・敦賀市・南越前町の3市町において連携協定を結び、協議会を設立しました。

当協議会では、明治15年に日本海側で最初に開業した長浜－金ヶ崎（敦賀）間の鉄道の歴史や、敦賀－今庄間の急勾配の峠越えなどを含むストーリーを活かし、県境をまたいだ広域観光を推進していきます。

○令和3年度事業実績

- ① 5月10日
 - ・長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会総会（書面）
- ② 4月～3月
 - ・トンネルカード配布
- ③ 小中学生向けガイド体験・ワークショップの開催
 - ・小学生向け 11月27・28日（土・日）
 - ・中学生向け 12月4日（土）
- ④ 案内看板等の整備
 - ・長浜市：鉄道スクエア、中ノ郷駅跡
 - ・敦賀市：小刀根トンネル、小刀根トンネル誘導看板
曲谷・芦谷・伊良谷トンネル
 - ・南越前町：今庄駅給水塔・給炭台、山中トンネル
- ⑤ 日本遺産ガイドブック制作
 - ・日本語版 30,000部 英語版 3,000部 サイズ B5
- ⑥ 日本遺産の魅力発信映像制作
- ⑦ 長浜鉄道スクエア展示リニューアル
- ⑧ 敦賀鉄道資料館展示リニューアル
- ⑨ 旧北陸線トンネル群周辺環境整備
- ⑩ AR体験コンテンツの導入（山中トンネル）



タブレットにリアルに出現する
蒸気機関車は大迫力！



YouTube:10分版動画

■2021年度の活動経過

2021年度も、2020年度に続き新型コロナウイルスの感染防止対策措置による休館が多く、開館の出来た場合も館内展示・屋外展示車輛車内の公開中止など感染防止対策をとった縮小開館となった。



新型コロナウイルスの感染防止
対策を行っての開館
2022年1月9日

■2022年度の活動計画

2022年度も、引き続き大物車シキ160形160、木製有蓋車ワ1形5490・ワ11形11の修繕作業などを行う。
2023年9月に開館20周年をむかえるため、記念事業企画中。



シキ160 黒塗装中
2022年1月9日

◆2022年度定期開館日

2022年4月3日(日)、5月1日(日)、6月5日(日)、7月3日(日)、8月7日(日)、9月4日(日)、
10月2日(日)、11月6日(日)、12月4日(日)、2023年1月8日(日)、2月5日(日)、3月5日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒600-8835 京都府京都市下京区観喜寺町 Tel : 075-313-3374 URL : https://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : yuuki-tada@westjr.co.jp 担当者：多田 祐貴
-----	-------------	---

1. 京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）が所管する
京都鉄道博物館は、2022 年 4 月に開業 6 周年を迎えました。

京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「SL スチーム号」や「引込線車両展示」、現役の JR 社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

SL スチーム号



運転シミュレータ



鉄道ジオラマ



引込線車両展示



オヤ 31 形建築限界測定車



117 系近郊型電車

鉄道おしごと体験



※新型コロナウイルス感染症対策のため、展示・体験の一部中止や利用制限を実施しています。

2. 鉄道文化活動

JR 西日本では、京都鉄道博物館を中心に、当社エリア内の鉄道文化財を保存・管理し、これらを活用する鉄道文化活動を推進しています。

当社エリア内の鉄道文化財(例)



マイテ 49 形 1 号車



和田岬線旋回橋

団体名



公益財団法人
交通文化振興財団

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目2-26
天神第一ビル1004号室
Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114
URL : <https://tcpf.or.jp/>
担当者：事務局交通資料調査センター

○交通資料調査センターの活動

当財団の交通資料調査センターでは、交通の歴史と文化を未来へ継承するために、交通に関わる歴史資料の収集・保存や各地に残されている歴史遺産の調査活動を実施しています。

歴史資料の収集・保存

交通の歴史や文化に関わる文書類、写真、記念品、記録、文献等の資料類の散逸を防ぐため、それら資料の収集・保存を実施しています。収集方法は主に皆様からの寄贈で、昨年度は1万点を超える資料を寄贈いただきました。また、所蔵資料のデジタルデータ化を進め、その一部は、デジタルアーカイブ「交通文化振興財団デジタル資料館」で公開しています。



←デジタル資料館は
こちらから



歴史遺産調査

交通に関わる歴史的・文化的事物の現地調査等を実施し、現状を写真や記録にして後世に伝える活動を進めています。他団体様からの依頼による調査や共同での調査にも対応しておりますので、お気軽にご相談ください。



交通の歴史遺産や歴史資料の保存・活用の意義を周知するため、他団体のイベントでの講演・ミニトークなども行っています。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。

交通文化振興財団



団体名



旧加悦 S L 広場

宮津海陸運輸(株)

〒629-2251 京都府宮津市字須津413

TEL 0772-46-1155 FAX 0772-46-1166

近況

■ 旧加悦 S L 広場〔全27両〕の車両譲渡状況のご報告

加悦鉄道車両群を1両でも多く残すべく、NPO加悦鉄道保存会様や各方面の皆様のお力添えを頂きながら協議を進めております。昨年度中に10両の保存先が決定し、譲渡を終えました。

保存にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

尚、*譲渡先未公表の車両につきましては、引受者様の計画及び防犯の関係上現時点では公表不可の為、公表可能となったタイミングで皆様にご報告したく存じます。

① 保存譲渡 完了 10車両

	車両名	所有者・保存先	地域
1	123号蒸気機関車	与謝野町（加悦鉄道資料館 旧加悦駅舎）	京都府
2	ハブ3木造客車		
3	ハ4995木造客車		
4	103号蒸気機関車	長門ポッポを守る会（道の駅 蛸街道西ノ市）	山口県
5	1216号蒸気機関車	* 未公表	関西
6	ハ21木造客車		
7	DC351 ディーゼル機関車	五戸町（ごのへ郷土館）	青森県
8	TMC100モーターカー	若線 S L 遺産保存会（若桜鉄道八東駅）	鳥取県
9	京都市電 N 5 号	(株)西鶴（和泉市 ハピネスパーク霊園 内）	大阪府
10	ワブ3	NPO貨物鉄道博物館	三重県

② 保存譲渡 内定 6両

（保存地域は現段階の引受者様の計画場所）

	車両名	譲渡・保存先	保存地域
1	KD-4ディーゼル機関車	(一社)あしおトロッコ館（古河足尾歴史館(仮)）	栃木県
2	ト404貨車		
3	キハ1018ディーゼルカー	* 未公表	関西
4	キハ083ディーゼルカー		
5	キハユニ51ディーゼルカー	* 未公表	九州
6	DB202ディーゼル機関車	* 未公表	北海道

③ 希望者と協議済み回答待ち 10両

（保存地域は現段階の引受者様の計画場所）

	車両名	希望者	保存地域
1	4号蒸気機関車	* 未公表	関西
2	モハ1202電車	* 未公表	関西
3	サハ3104（改造車）	* 未公表	関西
4	ハ10木造客車	* 未公表	関西
5	C57189蒸気機関車	* 未公表	関西
6	キ165ラッセル車	* 未公表	関西
7	ヨ2047車掌車	* 未公表	関西
8	DB201ディーゼル機関車	NPO加悦鉄道保存会（与謝野町内）	京都府
9	キハ101ディーゼルカー		
10	フハ2木造客車		

④ 保存希望者なし 1両

	車両名	備考
1	C58390蒸気機関車	※ 部品引取の希望あり

車両譲渡諸条件： 車両無償譲渡（加悦 S L 広場 現状有姿渡し）
運搬・搬出等にかかる費用は引受者様負担にて

車両の保存先を募っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上

団体名

特定非営利活動法人
加悦鐵道保存会

〒629-2403

京都府与謝野町加悦433番地 旧加悦鐵道加悦駅舎

TEL/FAX 0772(43)0232

HP <http://kayatetsu.web.fc2.com/>

■ 2021年9月～2022年8月までの主な活動



古典車輛3両（加悦鐵道2号蒸気機関車・ハ4995客車・ハブ3客車）を加悦鐵道資料館に展示するため、旧加悦SL広場での入換・搬出搬入作業に協力



資料館への搬入後の記念式典



加悦鐵道資料館リニューアル作業



C160 蒸気機関車の整備

○ 加悦SL広場閉園後は、指定管理を受託している加悦鐵道資料館の運営を行いながら、残された車両の整備をしつつ加悦鐵道の歴史を後世に伝えるべく活動をすすめています。

○ ホームページのご案内
その他活動等につきましてはホームページに掲載しておりますので、こちらをご覧ください。

<http://kayatetsu.web.fc2.com/>

令和3年度 片上鉄道保存会 活動報告書

〒708-0001 岡山県津山市小原149-5

URL: <http://katatetsu.travel.coocan.jp>

Email: hozonkai@katatetsu.travel.coocan.jp

担当者: 代表 甲本 康則

片上鉄道保存会は、岡山県久米郡美咲町吉ヶ原にあります「柵原ふれあい鉱山公園」で、旧片上鉄道の車両や施設などの保存・維持活動を行っています。

展示運転概況

2021年度の展示運転はコロナの影響で自粛しており行っておりません。

現在は施設維持活動及び不定期な車輛の維持走行を行っています。



今まで出来なかった公園内の整理整頓を進めております。

今後の活動方針について

コロナ禍の状況において方針が定まらず、今後の方針については未定です。

若桜駅を元気にする会

〒680-0701

鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5

若桜町役場 企画政策課内

TEL:0858-82-2231

FAX:0858-82-0134

E-mail:kikaku@town.wakasa.tottori.jp

若桜駅・駅周辺の近況

若桜駅で蒸気機関車(C12 167)やディーゼル機関車(DD16 7)を使用した運転体験などの行事は、コロナ感染の拡大状況を勘案して再開できませんでした。一方、若鉄感謝祭やこどもの日イベントなどを開催し、大勢のお客様で駅構内が賑わいました。



若桜駅を元気にする会の取り組み

沿線景観改善活動

若桜駅を元気にする会では毎年、若桜町上高野地内で花の植栽活動を行っており、早春にはスイセンの列が線路際を飾りました。

また、沿線各駅と協力して若桜駅構内に鯉のぼりを飾り付け、5月5日(木)に行われたこどもの日イベントに華を添えました。



視察研修

会員研修として、鳥取県東部と島根県出雲を結ぶJR西日本の観光列車「あめつち」に乗車しました。



那岐駅舎を守る会の活動支援

NPO 市民文化財ネットワーク鳥取

那岐駅は、山陰本線鳥取駅と姫新線東津山駅を結ぶ地方交通線因美線の鳥取県と岡山県の鳥取側県境の駅で、両県をつなぐ物見トンネルの鳥取県側入口に位置する駅で、昭和 7 年(1932)開設、築後 90 年の建造物である。急峻な地理条件から改札からホームまで急な階段となっているユニークな駅である。この路線は、平成 6 年智頭急行の開設によって智頭駅から姫路駅までの別ルートの線路が生まれて利用する列車が激減し、JR 各社のスリム化計画などの影響でその存続が厳しくなっている。このため地元住民を中心として「那岐駅舎を守る会」が結成され、NPO 市民文化財ネットワーク鳥取もこの運動を支援することとなった。智頭町は、この駅舎を診療所とデイサービス施設として利用し、鉄道利用以外の駅舎利用を模索している。

「那岐駅舎を守る会」は、各種の取り組みを行っているが、その一つとして駅舎をギャラリーとして活用し、駅舎に懐かしい昭和初期の駅舎や鉄道の写真パネルを展示し、観覧した方々の意見を求めるなどして鉄道並びに駅舎が人々の生活の中で重要な意味を有していたことに対する人々の認識を深めようとした。



2022 年 8 月 5 日には、鳥取・岡山両県の知事が那岐駅舎を守る会の駅舎ギャラリーを訪れ、各々、地方鉄道の存続のために協力する意欲を示した。

駅舎は、診療所とデイサービスとして使われており、駅舎が地域住民にとっては鉄道利用以外にも重要な地域施設となることを示す好事例と言えよう。



那岐駅舎の前で鳥取・岡山両県知事と智頭町副町長、「那岐駅舎を守る会」の人々
駅舎入口の左に那岐診療所とミニデイサービスの看板が見える。

団体名	山口線 S L 運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 083-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ E-mail : c571@c571.jp 担当者：中上 秀太
-----	-----------------	--

令和4年 出発式を実施

- 3月19日（土）に今シーズンの運行開始を記念し、新山口駅で出発式を実施しました。
- 当日は、コロナ後初めて山口県と山口市のゆるキャラも出演し、式典を盛り上げました。
- 今シーズンから、客車の側面に表示している「行先」と「指定席」の表示札をレトロなデザインにリニューアルしています。通常運行時は、「白色ベースに黒文字」、運行初日など特別な運転日には「群青色ベースに白文字」を使用しています。



山口線新山口駅～津和野駅間 開通100周年記念イベントを実施

- S Lやまぐち号の運行区間である山口線新山口駅～津和野駅間が8月5日（金）に開通100周年となるのを記念し、8月6日（土）に記念イベントを実施しました。
- 当日は、D Lやまぐち号としてDE10+DE10の重連運転に加え、往路と復路で異なる記念ヘッドマークで運行し、沿線の皆様に手旗を振ってもらうなどのおもてなしをしていただきました。



S Lやまぐち号の概要

[運転区間]

新山口駅（山口県山口市） ⇄ 津和野駅（島根県津和野町）

※1日1往復（土日祝）

[運転時刻]

新山口駅 10:50発 ⇒ 津和野駅 12:59着

津和野駅 15:45発 ⇒ 新山口駅 17:30着

※5月3日（水・祝）に不具合が発生したため、
現在はS L運行を行っておりません。
運転再開時期は、未定です。（8月時点）



最新の情報は、公式HPからご確認ください！

S Lやまぐち号

検索

団体名	愛媛県西条市 鉄道歴史パーク in SAIJO	〒793-0030 Tel : 0897-47-3855 Fax : 0897-53-6200 URL : https://s-trp.jp/ Email : tetsudobunka@saijo-city.jp 担当者：西条市観光振興課 伊藤 彰浩
-----	----------------------------	--

四国鉄道文化館は、JR予讃線・伊予西条駅に隣接する『鉄道歴史パーク in 西条』の施設として、2007年11月にオープンし、今年で15年になります。新幹線の父を顕彰する『十河信二記念館』や貴重な実物車両を展示する『北館』・『南館』、観光案内所を兼ねる『観光交流センター』の4館からなり、四国唯一の本格的な鉄道博物館として、たくさんの鉄道ファンや子供たちが訪れています。コロナ禍ではありますが、その十分な対策を行いながら、可能な範囲のイベントの実施や情報発信に努めており、今回は、その一例を紹介いたします。



1 『通表閉そく器の復活』

かつて四国内で使われ、長い間、倉庫で眠っていた『通表閉そく器』を、日本鉄道保存協会の会員各所のご協力をいただきながら、二台が連動して、実際に可動するよう、復活工事を行いました。普段は展示のみですが、日を決めて、イベントを企画し、懐かしい音とともに、「通表閉そく方式」を体験していただく予定です。

2 『アンパンマン列車模型展』

JR四国の協力のもと、夏休みを中心に、『アンパンマン列車模型展』を行っています。実際に走っているアンパンマン特急やトロッコなど、1/25の精巧な車両模型や、その歴史を紹介したパネルなど24枚を展示し、大勢のチビっ子ファンでにぎわいます。



3 『O系ぶらす』

O系新幹線のお掃除会＋勉強会を、3か月に1回行っています。予約制で定員を減らし、密にならないよう配慮しています。手の届く範囲のふき掃除のあと、連結器の出し入れ作業や、運転席に座り、汽笛の吹鳴体験をするなど、毎回好評です。

(他に、「C57ぶらす」や「DF50ぶらす」を行っています。)

4 『軌道自転車体験乗車会』

館内には、JR四国の伊予西条駅の構内からの、「引き込み線」があります。その一部を使い、軌道自転車(通称：レールスター)の体験乗車会を行っています。保線作業や線路巡回などで、以前使用されていた4人乗りのレールスターですが、ガタゴト線路の継ぎ目を感じながら、走行出来ます。



5 『手トロ体験運転会』

コロナ禍で、大きなイベントが難しいため、ミニSL軌道を利用した「手トロ」(手回しで走るミニトロッコ)の体験運転会を行いました。今回は、芝生周り80mほどの周回軌道でしたが、先頭に手作りの木製機関車を連結し、二人で乗ることが出来たため、人気を博しました。

馬路村 や な せ 魚梁瀬森林鉄道

〒781-6202

高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所

TEL : 0887-43-2211 FAX : 0887-43-2208

E-mail : yanase@vill.umaji.lg.jp

URL : <http://www.umajimura.jp/>

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正6年には本線終点の石仙まで軌道が伸びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長250kmといわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和32年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。33年から軌道の撤去がはじまり、38年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成21年に橋梁や隧道など18箇所（馬路村内では4箇所）が国の重要文化財の指定を受けました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも9基（馬路村内では2基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸5ヵ町村）で国の重要文化財の指定を受けるのは、我が国初のことです。

平成29年度、森林鉄道の遺構が残る中芸5ヵ町村が申請した「森林鉄道から日本一のゆずロードへーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー」が日本遺産に認定されました。

現在、貴重な観光資源としても活用され、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時
[8月は毎日運行]

◎料金／乗車大人400円など

◎お問い合わせ／馬路温泉

TEL:0887-44-2026



●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 10時00分～12時、13時～15時30分
[8月は土曜も運行]

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／集落活動センターやなせ

TEL:0887-43-2055



団体名

宇高連絡船愛好會

〒

Tel : 090-1337-7660

Fax :

URL : ukourenrakusenaiiko@wixsite.com

Email : aikoukai@tamano.or.jp

担当者：三村 卓也

「宇高連絡船」は明治43（1910）年6月の運航開始以来、昭和63（1988）年4月の瀬戸大橋開通に伴う廃止時まで、本州と四国の大動脈として「宇野（岡山県）—高松（香川県）」の区間で旅客と鉄道貨物を運び続けていました。

廃止後、使命を終えた船は早い段階で売却され、棧橋施設も宇野側は2年後に撤去されました。唯一、発着バースのみが残りましたが、これも港の再開発工事が始まると撤去される運命でした。

当時、同船を偲ぶ団体はありましたが、歴史を継承する団体は存在しておらず、史料の散逸化を防ぐのは個人的な活動で行っていたのが現状です。会長もその1人で、史料収集と歴史研究を行い、同船廃止5年である平成5（1993）年3月には企画展示を開催し、この時協力した友人が同年8月に結成した「宇高連絡船愛好會」初期メンバーとなります。最初の活動は唯一残っていたバースの保存運動でしたが、実はメンバー全員が高校生で、関係機関を訪ねても最初は全く相手にされず、活動は難航しました。しかし、諦める事無く訪問を繰り返し、地元に対しても保存の意義を伝える活動を行い、何とか保存に結びつけました。

現在行っているのは、

- ・史料の収集と研究、それに伴う歴史の再検証
- ・バースの清掃とメンテナンス、PR活動
- ・連絡船の役割を伝える為、最盛期を再現した立体資料（Nゲージ模型）の製作と管理
（宇野港の産業振興ビル1階ロビーにて通常は常設展示、イベント時には列車運行）

そして、今年は9月4日の1日限定でJR西日本の企画である急行「鷺羽」の復活運転に合わせ、四国汽船をチャーターした宇高航路リバイバル運航を計画、また11月には今年就航50周年を迎える宇高ホーバーを辿る企画も考えているところです。



団体名	九州旅客鉄道株式会社	〒812-8566 Tel : 092-474-2541 Fax : 092-474-3898 URL : https://www.jrkyushu.co.jp/ Email : tom.nakamura@jrkyushu.co.jp 担当者：中村 智和
-----	------------	---

《キハ 47 形車両のリニューアルによる活用》

2022 年 9 月 23 日に開業を控えた西九州新幹線。JR 九州では、西九州新幹線開業に合わせ、キハ 47 形をリニューアルし、以下のように活用することとしております。

●ふたつ星4047

観光列車として 9 月 23 日より運行を開始する「ふたつ星4047」。佐賀県、長崎県という九州の観光における“ふたつの星”を、キハ 40、47 形の車両で巡りながら、西九州エリアの魅力を多くの方々に感じていただく、新たな D&S 列車(弊社では観光列車を「D&S 列車」(デザイン&ストーリー列車)と呼んでいます)です。



●キハ 47 リニューアル車両

9 月 23 日の西九州新幹線開業日に合わせ、西九州エリアを走行するキハ 47 形もリニューアルされます。「青く美しい有明海」をイメージし車体全体を青色とし、車体側面には朝日を浴びて光輝く黄色の波と、夕日が波間に沈むイメージでオレンジ色の波を表現しています。また、車体側面上部にキハ 47 形リニューアル車両が運行する地名を表記しています。また、車内トイレ等もリニューアルされます。



●「Choo Choo 西九州 TRAIN」プロジェクト

西九州新幹線の開業に合わせ、在来線にキハ47形車両が導入されることに伴い、佐賀県・長崎県の賑わいづくりの一環として、「Choo Choo 西九州 TRAIN」プロジェクトが行われます。長崎県佐世保市出身の「EXILE TAKAHIRO 氏」に佐賀県・長崎県をイメージし地元の皆さまに愛されるデザインをお願いし、このデザインを地元の小学生の皆さんの手で列車にペイントを行っていただきます。



北九州線車輛保存会

お問合せ（住所変更しました）
〒818-0003
福岡県筑紫野市大字山家4930-1
07041717738 代表 手嶋康人
teshi729@yahoo.co.jp

621.324号搬出

2022年活動報告



かしいかえん閉園に伴い621号.324号を搬出いたしました。現在は運送会社で仮保管中。

新しい活動拠点として土地を取得しました。



保存車輛ヤード福岡として、様々な保存活動拠点にしていまいます。

筑豊電鉄2002号を取得しました。



筑豊電鉄2002号の廃車に伴い、筑豊電鉄株式会社様より譲渡頂きました。石綿除去を施工。新拠点に移設し、往年の西鉄軌道線の車輛が一同に会する保存会長年の夢が叶います。

団体名	株式会社 東海汽缶	〒424-0065 Tel : 054-346-6688 Fax : 054-346-6430 URL : http://tokaikikan.co.jp Email : ishikawa@tokaikikan.co.jp 担当者：石川寛之
-----	-----------	---

1. 弊社では今後蒸気機関車で用いられている機関車型移動式ボイラの整備を本格的に実施していくため、整備工場を新たに建設しています。年内完成予定で来春稼働開始を予定しています。今後は、蒸気機関車専用工場として活用していきます。



2. 弊社が発起人となり、東海地区で蒸気機関車の運行を行っている3社（博物館明治村、愛知こどもの国、修善寺虹の郷）をメンバーとし、大井川鐵道をアドバイザーとした「東海地区SL運行協議会」を発足しました。第1回総会は6月14日に博物館明治村様のご厚意により会場を設定していただき、実施いたしました。この会は、今後有火状態の蒸気機関車保存について、①日頃抱えている技術的な問題点を出し合い解決策を検討する。②運行時における危険性を再認識し安全確保の強化に努める。③蒸気機関車の運行による地域活性化等を真剣に話し合う場です。1年に2回開催予定です。

※ 弊社では、蒸気機関車のボイラのみならず、走行装置、ブレーキ装置等を含む機関車全体の整備についても手掛けていく予定です。

【お知らせ】

弊社では、新工場（蒸気機関車整備工場）の稼働に向けて、現在正社員を募集しています。ご興味をお持ちの方はご連絡ください。

連絡先：株式会社 東海汽缶

担当：石川

メール：ishikawa@tokaikikan.co.jp



リベットと溶接を併用した我が国初の瑞穂橋梁

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目61番地 泰生ビル405号室

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 内

電話／FAX: 045-651-1730

URL <http://www.rpsj.jp/>

E-mail info@rpsj.jp